

(様式第 10)

熊本大学
令和元

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人熊本大学長 原田 信

熊本大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 30 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
氏 名	国立大学法人熊本大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

熊本大学病院

3 所在の場所

〒860-8556 熊本市中央区本荘1丁目1番1号	電話(096)342-2111
------------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無
内科と組み合わせた診療科名等	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
①呼吸器内科	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
②消化器内科	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③循環器内科	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④腎臓内科	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5神経内科	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥血液内科	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7内分泌内科	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧代謝内科	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9感染症内科	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨リウマチ科	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
診療実績		

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。



(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 ②消化器外科 ③乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 7内分泌外科 ⑧小児外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 12放射線科 ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 ③口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1脳神経内科 2移植外科 3形成外科 4リハビリテーション科 5病理診断科 6 7
8 9 10 11 12 13 14
15 16 17 18 19 20 21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
50床	床	床	床	798床	848床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	302人	322人	504.7人	看 護 補 助 者	22人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0人
歯 科 医 師	7人	24人	24.3人	理 学 療 法 士	17人	臨 床 検 査 技 師	71人
薬 剤 師	65人	0人	65人	作 業 療 法 士	8人	衛 生 検 査 技 師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	6人	そ の 他	0人
助 産 師	32人	1人	32.7人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	0人
看 護 師	788人	48人	824.5人	臨 床 工 学 士	19人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	5人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	そ の 他 の 技 術 員	16人
歯 科 衛 生 士	2人	0人	2人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	271人
管 理 栄 養 士	9人	1人	9.8人	診 療 放 射 線 技 師	46人	そ の 他 の 職 員	68人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	62人	眼科専門医	10人
外科専門医	51人	耳鼻咽喉科専門医	10人
精神科専門医	7人	放射線科専門医	24人
小児科専門医	25人	脳神経外科専門医	12人
皮膚科専門医	11人	整形外科専門医	20人
泌尿器科専門医	11人	麻酔科専門医	20人
産婦人科専門医	10人	救急科専門医	4人
		合 計	277人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (谷原 秀信) 任命年月日 平成30年4月1日

平成25年4月～平成27年3月まで、医療安全管理委員会委員長 (熊本大学医学部附属病院長)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	658.52人	21.58人	680.1人
1日当たり平均外来患者数	1,439.43人	82.47人	1,521.9人
1日当たり平均調剤数			767.03剤
必要医師数			154.29人
必要歯科医師数			8人
必要薬剤師数			23人
必要(准)看護師数			393人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	883 m ²	SR	病床数	30床	心電計	○・無
			人工呼吸装置	○・無	心細動除去装置	○・無
			その他の救急蘇生装置	○・無	ペースメーカー	○・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	246 m ²	病床数		16床
	[移動式の場合]	台数	21台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床積	53 m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	591m ²	SR	(主な設備) 汎用自動分析装置、電解質測定装置、HbA1c分析装置			
細菌検査室	137m ²	SR	(主な設備) 自動塗布装置、薬剤感受性装置、自動染色装置			
病理検査室	446m ²	SR	(主な設備) 自動固定包埋装置、自動染色装置、凍結切片作成装置			
病理解剖室	187m ²	SR	(主な設備) 病理解剖台、臓器写真撮影装置、オートクレーブ			
研究室	133m ²	SR	(主な設備) クリオスタット、遠心機、オートクレーブ			
講義室	1,126m ²	SR	室数	5室	収容定員	828人
図書室	2,524m ²	SR	室数	2室	蔵書数	177,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	94.0%	逆紹介率	83.8%
算出根拠 A: 紹介患者の数	15,698人		
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	15,173人		
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,326人		
D: 初診の患者の数	18,098人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
綾部 貴典	宮崎大学医学 部附属病院 医療安全管理 部	○	医療安全に関する見識を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
藤木 美才	ふじき法律事 務所		法律に関する見識を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
石崎 哲彦	熊本大学肝移 植いちょうの 会 With		医療を受ける者 その他の医療従 事者以外の者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無
公表の方法 熊本大学ホームページによる公表	

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
神経変性疾患の遺伝子診断	0人
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	24人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ペトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法 肺癌(扁平上皮肺癌及び小細胞肺癌を除き、病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	0人
放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法 初発の中樞神経系原発悪性リンパ腫(病理学的見地からびまん性大細胞型B細胞リンパ腫であると確認されたものであって、原発部位が大脑、小脳又は脳幹であるものに限る。)	2人
インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすぶり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	2人
テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したのものに限る。)	0人
水素ガス吸入療法 心停止後症候群(院外における心停止後に院外又は救急外来において自己心拍が再開し、かつ、心原性心停止が推定されるものに限る。)	0人
術後のカペシタビン内服投与及びオキサリプラチン静脈内投与の併用療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	該当なし	取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	14	56	ベーチェット病	89
2	筋萎縮性側索硬化症	93	57	特発性拡張型心筋症	123
3	脊髄性筋萎縮症	11	58	肥大型心筋症	99
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	
5	進行性核上性麻痺	37	60	再生不良性貧血	41
6	パーキンソン病	274	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	18	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	10
8	ハンチントン病		63	特発性血小板減少性紫斑病	47
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	
10	シャルコー・マリー・トゥース病	4	65	原発性免疫不全症候群	8
11	重症筋無力症	199	66	IgA 腎症	70
12	先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎	39
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	151	68	黄色靭帯骨化症	18
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	51	69	後縦靭帯骨化症	53
15	封入体筋炎	13	70	広範脊柱管狭窄症	7
16	クロー・深瀬症候群	3	71	特発性大腿骨頭壊死症	30
17	多系統萎縮症	49	72	下垂体性ADH分泌異常症	14
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	110	73	下垂体性TSH分泌亢進症	8
19	ライソゾーム病	23	74	下垂体性PRL分泌亢進症	49
20	副腎白質ジストロフィー		75	クッシング病	12
21	ミトコンドリア病	19	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	2
22	もやもや病	104	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	61
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	266
24	亜急性硬化性全脳炎		79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
25	進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症	24	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	10
27	特発性基底核石灰化症		82	先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス	168	83	アジソン病	5
29	ウルリッヒ病	1	84	サルコイドーシス	108
30	遠位型ミオパチー	2	85	特発性間質性肺炎	80
31	ベスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	36
32	自己食空腔性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	1
33	シュワルツ・ヤンベル症候群		88	慢性血栓性肺高血圧症	8
34	神経線維腫症	50	89	リンパ管腫症	7
35	天疱瘡	32	90	網膜色素変性症	23
36	表皮水疱症		91	バッド・キアリ症候群	1
37	膿疱性乾癬(汎発型)	11	92	特発性門脈圧亢進症	9
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群		93	原発性胆汁性肝硬変	63
39	中毒性表皮壊死症	2	94	原発性硬化性胆管炎	6
40	高安動脈炎	24	95	自己免疫性肝炎	31
41	巨細胞性動脈炎	1	96	クローン病	96
42	結節性多発動脈炎	29	97	潰瘍性大腸炎	190
43	顕微鏡的多発血管炎	61	98	好酸球性消化管疾患	5
44	多発血管炎性肉芽腫症	14	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	18	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	6	101	腸管神経節細胞僅少症	1
47	パージャー病	3	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	5	103	CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	420	104	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	218	105	チャージ症候群	
51	全身性強皮症	350	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	59	107	若年性特発性関節炎	7
53	シェーグレン症候群	94	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人スチル病	16	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎	2	110	ブラウ症候群	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
111	先天性ミオパチー		161	家族性良性慢性天疱瘡	1
112	マリネスコ・シェーグレン症候群		162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	21
113	筋ジストロフィー	29	163	特発性後天性全身性無汗症	5
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164	眼皮膚白皮症	
115	遺伝性周期性四肢麻痺		165	肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎		166	弾性線維性仮性黄色腫	2
117	脊髄空洞症	10	167	マルファン症候群	
118	脊髄髄膜瘤		168	エーラス・ダンロス症候群	1
119	アイザックス症候群		169	メンケス病	
120	遺伝性ジストニア		170	オクシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症		171	ウィルソン病	7
122	脳表ヘモジデリン沈着症		172	低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症		173	VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	2	174	那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症		175	ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群		176	コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症	11	177	ジュベール症候群関連疾患	
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎		178	モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	1	179	ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症	1	180	ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病		181	クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺		182	アペール症候群	
133	メビウス症候群		183	ファイファー症候群	1
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		184	アントレー・ピクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群	1	185	コフィン・シリシ症候群	
136	片側巨脳症		186	ロスムンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成	1	187	歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症	1	188	多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症		189	無脾症候群	
140	ドラベ症候群		190	鯉耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	7	191	ウェルナー症候群	1
142	ミオクロニー欠神てんかん		192	コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193	ブラダー・ウィリ症候群	2
144	レノックス・ガスター症候群	1	194	ソトス症候群	
145	ウエスト症候群		195	ヌーナン症候群	
146	大田原症候群		196	ヤング・シンプソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症		197	1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		198	4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	2	199	5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスマッセン脳炎		201	アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群		202	スミス・マギニス症候群	
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎		203	22q11.2欠失症候群	1
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症		204	エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群		205	脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群		206	脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群		207	総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症	14	208	修正大血管転位症	
159	色素性乾皮症	1	209	完全大血管転位症	
160	先天性魚鱗癬	1	210	単心室症	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群		259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症		260	シトステロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		262	原発性高カイロミクロン血症	
215	ファロー四徴症	1	263	脳髄黄色腫症	
216	両大血管右室起始症	1	264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病		265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群		266	家族性地中海熱	3
219	ギャロウェイ・モフト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎		268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎	4	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群	33	270	慢性再発性多発性骨髄炎	2
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎		271	強直性脊椎炎	7
224	紫斑病性腎炎	8	272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)		274	骨形成不全症	
227	オスラー病	6	275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎	1	276	軟骨無形成症	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	3	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群		278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症		279	巨大静脈奇形(頸部口咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	3
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症	2	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症		284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンコニ貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症		286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287	エプスタイン症候群	2
240	フェニルケトン尿症	5	288	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型		289	クロンカイト・カナダ症候群	
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	
244	メーブルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症		293	総排泄腔遺残	1
246	メチルマロン酸血症	1	294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	10
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性膀胱炎	
251	尿素サイクル異常症	3	299	嚢胞性線維症	1
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	6
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	2
254	ポルフィリン症	4	302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシャー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病	7	305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	10

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病		319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	
308	進行性白質脳症	1	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
309	進行性ミオクローヌステんかん		321	非ケトース型高グリシン血症	
310	先天異常症候群		322	β -ケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症		323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症		324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症		325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症		326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症		327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	2
316	カルニチン回路異常症		328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症		329	無虹彩症	1
318	シトリン欠損症	1	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	2

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料1. 一般病棟 イ (7対1看護)	・病棟薬剤業務実施加算2
・特定機能病院入院基本料3. 精神病棟 ハ (13対1看護)	・データ提出加算2
・超急性期脳卒中加算	・提出データ評価加算
・診療録管理体制加算1	・入退院支援加算2
・医師事務作業補助体制加算1(30対1補助体制加算)	・入退院支援加算3
・急性期看護補助体制加算(25対1 看護補助者5割以上)	・精神疾患診療体制加算
・看護職員夜間12対1配置加算1	・精神科急性期医師配置加算
・看護補助加算2(50対1)(精神病棟)	・特定集中治療室管理料2
・療養環境加算	・特定集中治療室管理料3
・重症者等療養環境特別加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・無菌治療室管理加算1	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・無菌治療室管理加算2	・総合周産期特定集中治療室管理料 (母体・胎児集中治療室、新生児集中治療室)
・緩和ケア診療加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・緩和ケア診療加算 個別栄養食事管理加算	・小児入院医療管理料2
・精神科身体合併症管理加算	・小児入院医療管理料2に係る加算(プレイルーム加算)
・精神科リエゾンチーム加算	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・医療安全対策加算1	・歯科外来診療環境体制加算2
・感染防止対策加算1	・歯科診療特別対応連携加算
・感染防止対策地域連携加算	・
・抗菌薬適正使用支援加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・後発医薬品使用体制加算1	・
・病棟薬剤業務実施加算1	・

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・遺伝学的検査
・慢性維持透析患者外来医学管理料 腎代替療法実績加算	・骨髄微小残存病変量測定
・糖尿病合併症管理料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・HPV核酸検出
・がん患者指導管理料イ	・HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・がん患者指導管理料ロ	・検体検査管理加算(I)
・がん患者指導管理料ハ	・検体検査管理加算(IV)
・外来緩和ケア管理料	・国際標準検査管理加算
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・遺伝カウンセリング加算
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・糖尿病透析予防指導管理料	・時間内歩行試験
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・シャトルウォーキングテスト
・外来放射線照射診療料	・胎児心エコー法
・ニコチン依存症管理料	・ヘッドアップティルト試験
・療養・就労両立支援指導料の「注2」に掲げる相談体制充実加算	・人工臓器検査
・がん治療連携計画策定料	・皮下連続式グルコース測定
・肝炎インターフェロン治療計画料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・脳波検査判断料1
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・神経学的検査
・薬剤管理指導料	・補聴器適合検査
・医療機器安全管理料1	・ロービジョン検査判断料
・医療機器安全管理料2	・内服・点滴誘発試験
・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料	・センチネルリンパ節生検(片側)
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・画像診断管理加算1
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・画像診断管理加算2
・持続血糖測定器加算	・遠隔画像診断

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ポジトロン断層撮影	・医療保護入院等診療料
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・レーザー機器加算(医科)
・CT撮影	・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)
・冠動脈CT撮影加算	・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)
・MRI撮影	・人工腎臓 慢性維持透析を行った場合1
・心臓MRI撮影加算	・導入期加算2
・乳房MRI撮影加算	・透析液水質確保加算
・小児鎮静下MRI撮影加算	・慢性維持透析濾過加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・人工膵臓療法
・外来化学療法加算1	・センチネルリンパ節加算
・無菌製剤処理料	・皮膚移植術(死体)
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・組織拡張器による再建手術(一連につき) (乳房(再建手術)の場合に限る。)
・心大血管疾患リハビリテーション料の初期加算	・骨移植術(軟骨移植術を含む。) (同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る)))
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・脳血管疾患等リハビリテーション料の初期加算	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・運動器リハビリテーション料(I)	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・運動器リハビリテーション料の初期加算	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・呼吸器リハビリテーション料の初期加算	・網膜再建術
・がん患者リハビリテーション料	・人工中耳植込術
・認知症患者リハビリテーション料	・人工内耳植込術
・集団コミュニケーション療法料	・植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・歯科口腔リハビリテーション料2	・乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2
・認知療法・認知行動療法1	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・精神科作業療法	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膣腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・胸腔鏡下弁形成術	・同種死体腎移植術
・胸腔鏡下弁置換術	・生体腎移植術
・経カテーテル大動脈弁置換術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・経皮的中心筋焼灼術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術	・医科点数表第2章第10部手術通則第16号に掲げる手術(胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。))
・経静脈電極抜去術	・輸血管管理料Ⅱ
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	・麻酔管理料(Ⅰ)
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・麻酔管理料(Ⅱ)
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・放射線治療専任加算
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・外来放射線治療加算
・腹腔鏡下肝切除術	・1回線量増加加算
・生体部分肝移植術	・高エネルギー放射線治療
・同種死体肝移植術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術	・定位放射線治療
・生体部分小腸移植術	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・同種死体小腸移植術	・保険医療機関間の連携による病理診断
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速細胞診
・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	・病理診断管理加算2

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・悪性腫瘍病理組織標本加算	・
・医療機器安全管理料(歯科)	・
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算	・
・歯科治療時医療管理料	・
・精密触覚機能検査	・
・がん患者リハビリテーション料(歯科)	・
・口腔粘膜処置	・
・手術時歯根面レーザー応用加算	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・レーザー機器加算(歯科)	・
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・
・う蝕歯無痛的窩洞形成加算	・
・CAD/CAM冠	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・EBウイルス感染症迅速診断(リアルタイムPCR法)	・
・前眼部三次元画像解析	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	24 回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 20例 / 剖検率 9.6%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	2型糖尿病における褐色脂肪組織の再生を促す生理活性因子の解明	阪口 雅司	病院	900,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
2	4次元コーンビームCTの画質改善と位置照合精度の最適化	下東 吉信	病院	902,474	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
3	CEBPA遺伝子3'UTRメチル化を伴うMyeloid-T白血病の分子基盤の解明	岩永 栄作	病院	1,553,399	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
4	ER陽性HER2陰性乳癌におけるFGFR1下流のシグナル伝達経路への影響	富口 麻衣	病院	1,300,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
5	GOMの酵素活性を標的としたCADASILの治療戦略の展開	植田 明彦	病院	2,307,389	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
6	HIV-1 Capsid蛋白の自己崩壊を誘導する、新規Capsid阻害剤の開発	天野 将之	病院	989,775	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
7	HIV-1キャプシド構造タンパク質自壊と脱殻の新たな機構解明	天野 将之	病院	1,400,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
8	HIV感染者合併脳心血管疾患におけるvWFとADAMTS13の関与	宮川 寿一	病院	1,495,790	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
9	HSP90阻害剤による希少かつ難治な血管肉腫に対する新規治療法	梶原 一亨	病院	1,006,785	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
10	Mass cytometry によるPh-ALL微小残存病変の検出と診断への応用	徳永 賢治	病院	1,200,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
11	microRNA-21の敗血症に対する制御活性を用いた新たな診断・治療法の開発	蒲原 英伸	病院	1,200,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
12	MNAMを介するSirt1安定化メカニズムによる加齢性難聴発症予防	草場 雄基	病院	1,202,351	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
13	NAD中間代謝産物を用いた加齢性難聴の発症防止に関する研究	山田 卓生	病院	662,177	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
14	PKG1 α ロイシンジッパーを介した動態制御の解明と心不全治療の応用	中村 太志	病院	2,361,752	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
15	SMAD4を介した口腔癌の発癌・悪性形質獲得機構の解明と新規診断・治療法への応用	坂田 純基	病院	1,200,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
16	tRNA修飾異常が聴覚に及ぼす影響についての検討	小川 晋太郎	病院	2,085,956	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
17	Tsukushiによる創傷治癒メカニズムの分子基盤解明	新森 大佑	病院	2,196,010	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
18	Wntシグナル経路を介したCdh1による大腸癌浸潤・転移の制御	直江 秀昭	病院	1,600,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会

小計25,563,858

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
19	アセチルコリン受容体にフォーカスした自己免疫性自律神経節障害の多様性の解明	中根 俊成	病院	2,153,969	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
20	アミロイドーシスに関する調査研究	植田 光晴	病院	200,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
21	アンモニアトランスポーター(Rhcg)制御による新規糖尿病性腎症治療薬の開発	中山 裕史	病院	1,200,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
22	インスリンシグナルを標的とする新規microRNAの同定とその意義の解明	井形 元維	病院	1,002,104	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
23	インスリン抵抗性の制御に関与するメタロプロテアーゼの同定とその調節機序の解析	川崎 修二	病院	1,705,605	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
24	がん関連線維芽細胞に着眼した腫瘍内不均一性の分子機構解明と新規がん治療戦略の開発	佐藤 亮	病院	1,000,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
25	ギラン・バレー症候群における自律神経障害	渡利 菜里	病院	1,366,112	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
26	クモ膜下出血の予後改善を目的とした腎除神経術の効果とその機序	河野 隆幸	病院	50,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
27	ケモカイン受容体多量体形成阻害機構解明によるHIV感染の病態解明と治療への応用	中田 浩智	病院	1,300,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
28	ドレブリン測定による肺癌診断法の開発と肺腺がんにおけるドレブリンの分子機能解明	猪山 慎治	病院	900,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
29	ヒトグリオーマ初代培養株を用いた悪性グリオーマに対する局所治療法の開発	竹崎 達也	病院	3,498,734	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
30	ヒトミニチュア人工肝臓を用いた革新的薬物効果検証モデルの創出	宮田 辰徳	病院	1,200,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
31	ヒト遺伝性難聴に対する根本治療確立を目指した基礎研究	養田 涼生	病院	1,000,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
32	ヒト幹細胞から自己心臓と同期する立体心筋移植片を作る技術開発	野口 亮	病院	1,700,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
33	ヒト子宮および腎臓の発生に協調的に関与する遺伝子群の変異/欠損の同定	植賀 正彦	病院	1,297,626	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
34	フェレット癒痕声帯線維芽細胞に対するプロスタグランジンE2の効果に関する研究	高村 晴香	病院	500,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
35	プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究	野村 恵子	病院	200,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
36	マクロファージの分化制御を標的とした天然化合物による卵巣がん新規治療薬の開発	高石 清美	病院	1,534,250	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
37	リンパ球温存放射線治療の開発	斉藤 哲雄	病院	679,672	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
38	胃癌の早期発見のための、血中循環型miRNAに基づく診断signatureの開発	山村 謙介	病院	1,600,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会

小計24,088,072

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
39	胃癌腹腔内洗浄水中のExosomeによる腹膜再発予測	原田 和人	病院	1,600,000	③ 委 独立行政法人日本学術振興会
40	胃粘膜内のmicrobiomeと胃癌の悪性度に関する網羅的解析	吉田 直矢	病院	1,771,519	③ 委 独立行政法人日本学術振興会
41	遺伝子解析と免疫学的手法を用いた口腔癌患者の免疫動態解析と癌免疫療法への応用	平山 真敏	病院	1,300,000	③ 委 独立行政法人日本学術振興会
42	遺伝子改変iPS細胞由来マクロファージを用いた進行期悪性黒色腫の免疫療法	宮下 梓	病院	1,411,473	③ 委 独立行政法人日本学術振興会
43	炎症・ERストレスに着目した生活習慣病関連腎症にMRP8が果たす役割の解明	水本 輝彦	病院	1,600,000	③ 委 独立行政法人日本学術振興会
44	革新的治療法開発を目指した消化管術後の腸内細菌叢の網羅的解析	馬場 祥史	病院	4,203,157	③ 委 独立行政法人日本学術振興会
45	冠動脈CTにおける流体線量解析法を用いた冠血流予備量比の基礎的・臨床的検討	幸 秀明	病院	2,000,000	③ 委 独立行政法人日本学術振興会
46	肝芽腫組織からの幹細胞様細胞の単離と分化誘導モデルの作成	磯野 香織	病院	2,569,608	③ 委 独立行政法人日本学術振興会
47	肝細胞癌におけるTSP-1の発現と術後再発・転移機構の解明および治療法の開発	黒木 秀幸	病院	1,903,230	③ 委 独立行政法人日本学術振興会
48	肝細胞癌における癌関連好中球(TAN)の分離解析による役割の解明	岡部 弘尚	病院	1,961,340	③ 委 独立行政法人日本学術振興会
49	肝胆膵領域癌におけるがん代謝関連遺伝子Nr2の機能解析と新規治療法の開発	北野 雄希	病院	1,600,000	③ 委 独立行政法人日本学術振興会
50	肝内胆管癌におけるCXCL12の肝転移促進機序の解明と革新的治療開発への基盤研究	増田 稔郎	病院	1,200,000	③ 委 独立行政法人日本学術振興会
51	癌C5aR、C5a遊離プロテアーゼを標的とした治療法の確立	新田 英利	病院	2,227,248	③ 委 独立行政法人日本学術振興会
52	癌の生命予後規定因子CYLDの分子診断を突破口とした従来になかった分子標的治療の確立	城野 博史	病院	3,900,000	③ 委 独立行政法人日本学術振興会
53	癌幹細胞性維持に關与する腫瘍間質由来ニッチ因子の同定と新規治療戦略の確立	石本 崇胤	病院	5,400,000	③ 委 独立行政法人日本学術振興会
54	癌特異的糖代謝をターゲットとする新しい膵癌治療法の開発	橋本 大輔	病院	2,080,302	③ 委 独立行政法人日本学術振興会
55	眼特異的多機能型DDSによる革新的眼アミロイドーシス治療法の構築	林 祐也	病院	1,000,000	③ 委 独立行政法人日本学術振興会
56	休眠状態にある骨髄播種癌細胞の包括的理解による転移・再発メカニズムの解明と制御	中村 拓哉	病院	1,400,000	③ 委 独立行政法人日本学術振興会
57	急性心筋梗塞におけるコルヒチンの急性期抗炎症作用と予後及び長期的効果の検討	藤末 昂一郎	病院	2,656,446	③ 委 独立行政法人日本学術振興会

小計41,784,323

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
58	救急外来における頭部外傷症例の血中GFAP測定および臨床的有用性の検討	金子 唯	病院	216,069	補委 独立行政法人日本学術振興会
59	緊急災害時のエコノミークラス症候群に対する血栓症専門チームの確立と予防法の開発	坂本 憲治	病院	1,466,859	補委 独立行政法人日本学術振興会
60	緊急災害時の急性脳・心血管病に対する災害派遣専門チームの確立と予防法の開発	末田 大輔	病院	1,311,067	補委 独立行政法人日本学術振興会
61	熊本地震における医療支援活動の振り返りと、今後への提言	松井 邦彦	病院	4,819,895	補委 独立行政法人日本学術振興会
62	形質細胞特異的分子を標的とした多発性骨髄腫の治療開発	河野 和	病院	1,500,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
63	口腔がん難民救済のためのプテロドクチン療法実用化への第一歩を踏み出す研究	吉武 義泰	病院	1,318,378	補委 独立行政法人日本学術振興会
64	口腔癌におけるANGPTL4の機能解析と治療標的としての評価	田中 拓也	病院	1,246,016	補委 独立行政法人日本学術振興会
65	口腔癌における抗腫瘍免疫とリンパ節免疫環境の関連性	川原 健太	病院	1,505,960	補委 独立行政法人日本学術振興会
66	口腔癌の細胞外環境応答性エピゲノム解析に基づく新規診断法とエピゲノム治療法の創出	中元 雅史	病院	2,041,168	補委 独立行政法人日本学術振興会
67	口腔扁平上皮癌におけるIL-6を介する放射線耐性機序の解明と新規治療法の開発	松岡 祐一郎	病院	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
68	口腔扁平上皮癌におけるtRNA修飾の網羅的解析及び機能解析と新規治療法の開発	高橋 望	病院	1,761,494	補委 独立行政法人日本学術振興会
69	抗原検出キットを用いたアメーバ赤痢の診断法に関する研究	宮川 寿一	病院	2,116,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
70	抗糖尿病効果を発揮する熱ストレス応答経路活性化の臓器および分子間相互作用	近藤 龍也	病院	900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
71	鉱質コルチコイド受容体を介した膵島細胞の慢性炎症とGLP-1分泌調節機序の解明	後藤 理英子	病院	1,401,342	補委 独立行政法人日本学術振興会
72	高次エピゲノム制御を標的とした難治性口腔癌に対する新規治療戦略の開発	廣末 晃之	病院	1,400,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
73	高齢発症の気分障害におけるゲノム・エピゲノム要因の検討	菅原 裕子	病院	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
74	根治療法の切り札アミロイド・プレイカー開発とそれを用いた毒性メカニズム探求	植田 光晴	病院	1,500,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
75	細胞核DNA変異によるミトコンドリア機能異常が聴覚に及ぼす影響についての検討	三輪 徹	病院	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
76	脂肪酸代謝、酸化ストレスを介したNAFLD/NASH肝細胞癌の発癌・進展機構解明	中川 茂樹	病院	2,024,544	補委 独立行政法人日本学術振興会

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
77	時相変化に着目したAKI to CKD移行機序に果たす自然炎症の役割の解明	早田 学	病院	1,100,000	⑨ 委 独立行政法人日本学術振興会
78	治療抵抗性高血圧症に対する頭側延髄腹外側野の微小血管減圧術—確実な診断技術の開発	浜崎 禎	病院	2,107,789	⑨ 委 独立行政法人日本学術振興会
79	自己免疫性ミオパチー発症における抗横紋筋抗体、壊死性ミオパチー抗体の意味論	高松 孝太郎	病院	1,821,758	⑨ 委 独立行政法人日本学術振興会
80	腫瘍内微小環境におけるマクロファージスカベンジャー受容体CD163の機能解明	白石 大偉輔	病院	1,200,406	⑨ 委 独立行政法人日本学術振興会
81	樹状高分子デンドリマーの多機能性が変える難治性アミロイドーシスの根治治療	城野 博史	病院	3,000,000	⑨ 委 独立行政法人日本学術振興会
82	消化器癌におけるCCN familyの網羅的解析と癌進展及び耐性メカニズムの解明	長井 洋平	病院	1,978,303	⑨ 委 独立行政法人日本学術振興会
83	消化器癌におけるHippo-pathwayを介した癌幹細胞性獲得機構の解明	林 洋光	病院	1,441,979	⑨ 委 独立行政法人日本学術振興会
84	消化器癌のバイオマーカー開発のためのmicrobiomeとエピジェネティクス解析	馬場 祥史	病院	12,000,000	⑨ 委 独立行政法人日本学術振興会
85	障害児支援のサービスの質を向上させるための第三者評価方法の開発に関する研究	松葉佐 正	病院	1,200,000	⑨ 委 独立行政法人日本学術振興会
86	食道癌の新規治療法開発を目指したmicrobiomeとエピジェネティクス解析	馬場 祥史	病院	4,400,000	⑨ 委 独立行政法人日本学術振興会
87	心不全患者におけるNeprilysin濃度決定因子および予後への影響に関する研究	高潮 征爾	病院	1,245,936	⑨ 委 独立行政法人日本学術振興会
88	新規NASH誘導モデルマウスを用いたGPR43によるNASH発症抑制の検討	花谷 聡子	病院	1,000,000	⑨ 委 独立行政法人日本学術振興会
89	新規サーチュイン、Sirt7の動脈硬化進展に果たす役割と分子機序の解明	木村 優一	病院	1,100,000	⑨ 委 独立行政法人日本学術振興会
90	新規マイオカインを用いた大動脈弁狭窄症患者における包括的手術リスク評価法の確立	花谷 信介	病院	1,197,151	⑨ 委 独立行政法人日本学術振興会
91	新規長鎖ノンコーディングRNAに着目したCKD治療法開発のための基盤研究	森永 潤	病院	1,100,000	⑨ 委 独立行政法人日本学術振興会
92	新視点に基づくFAPの超早期診断法の確立:喫緊の臨床治験に向けて	増田 曜章	病院	1,300,000	⑨ 委 独立行政法人日本学術振興会
93	腎障害形成・進展における硫酸抱合型尿毒素の役割究明を機軸とする尿毒症抑制薬の探索	齋藤 秀之	病院	3,500,000	⑨ 委 独立行政法人日本学術振興会
94	切除後の臓器再生を誘導する新規足場素材の開発	伊吹 省	病院	275,053	⑨ 委 独立行政法人日本学術振興会
95	線維柱帯細胞の可塑性に基づいた新治療開発に関する研究	谷原 秀信	病院	1,500,000	⑨ 委 独立行政法人日本学術振興会

小計42,468,375

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
96	多層検出器CTを用いたリンパ節転移の定量的評価法の開発	猪山 裕治	病院	563,177	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
97	大腸癌における、エピジェネティクスを標的とした新規分子標的治療薬の検討	徳永 竜馬	病院	1,876,327	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
98	大腸癌におけるRNF43遺伝子による腫瘍増殖メカニズムの解明	杉原 栄孝	病院	2,180,762	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
99	大腸癌におけるstatinの抗腫瘍効果メカニズムの解明と新規治療法の開発	石川 晋之	病院	2,516,664	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
100	大腸癌の抗腫瘍免疫応答と抗癌剤感受性に関わる細菌を標的とした革新的治療法の開発	美馬 浩介	病院	4,200,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
101	大腸癌の新規治療法開発を目指したカヘキシア経路の網羅的解析	宮本 裕士	病院	1,816,855	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
102	大腸癌幹細胞における抗がん剤耐性獲得メカニズムの解明と治療標的因子の同定	泉 大輔	病院	2,713,753	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
103	胆道閉鎖症の細胆管化生とSOX9の研究から展開される肝疾患治療のための基盤研究	猪股 裕紀洋	病院	1,705,966	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
104	地域での地域医療実践教育拠点による総合診療及び総合診療医教育体制の有用性の検	小山 耕太	病院	909,960	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
105	地域医療研修における研修医の成長とレジリエンスに関する多施設研究	佐土原 道人	病院	400,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
106	直腸癌術前化学放射線療法の効果予測マーカーとしての血清中microRNA解析	日吉 幸晴	病院	827,061	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
107	低血糖による糖尿病網膜症増悪におけるミトコンドリア由来活性酸素種の寄与解析	梶原 伸宏	病院	1,200,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
108	電子カルテ情報をセマンティクス(意味・内容)の標準化により分析可能なデータに変換するための研究	宇宿 功市郎	病院	500,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
109	動脈硬化巣局所のマクロファージ増殖におけるSkp2の役割の解明と治療への応用	石井 規夫	病院	1,100,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
110	難治性気道感染症における抗菌薬適正使用法の開発—薬剤耐性菌の克服を目指して	右山 洋平	病院	800,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
111	乳癌におけるリキッドバイオプシー法の開発と臨床応用への取り組み	竹下 卓志	病院	1,000,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
112	脳機能・形態評価に基づく疲労関連小児疾患の治療法開発研究	上土井 貴子	病院	1,200,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
113	敗血症患者の救命率最大化を可能にする従来にない個別の薬物動態解析法の確立	尾田 一貴	病院	600,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
114	皮膚科疾患におけるインターフェロン誘導性遺伝子の解析とその応用	金丸 央	病院	1,200,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会

小計27,310,525

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
115	非小細胞肺癌の発生、進行におけるERβとGPER1/GPR30の働きの解明	白石 健治	病院	100,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
116	非小細胞肺癌術中迅速リンパ節転移診断のためのCDCA1-OSNA法の開発	白石 健治	病院	200,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
117	封入筋炎治療への架け橋となる新規モデルマウスの開発	俵 望	病院	1,400,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
118	変形性関節症に対する小胞体ストレス応答を標的とした新規治療の開発	水田 博志	病院	700,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
119	房室弁輪部起源心房性頻拍の機序および至適治療法に関する検討	山部 浩茂	病院	1,200,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
120	房水動態と創傷治癒におけるエビゲノムとファイブロサイトに着目した緑内障病態の研究	谷原 秀信	病院	4,000,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
121	末梢血中を循環するfibrocyteの緑内障術後創傷治癒への関与の解明	小島 祥	病院	1,200,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
122	慢性炎症におけるALDH1陽性細胞分画拡大を介した肺癌進展メカニズムの解明	有馬 浩太	病院	1,717,829	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
123	慢性炎症をターゲットとした動脈硬化の機序解明と、新たな薬物治療の可能性	河野 隆幸	病院	1,600,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
124	脈絡膜新生血管におけるミクログリア亜種とアミロイドβの関係に関する研究	芳賀 彰	病院	900,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
125	免疫異常が鍵を握る自律神経疾患における新規自己抗体の探索と病態解明	向野 晃弘	病院	1,752,261	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
126	免疫抑制状態の解除によるがんペプチドワクチン療法の治療効果促進に関する研究	福間 大喜	病院	1,342,358	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
127	輸血医療におけるトレーサビリティ確保に関する研究	米村 雄士	病院	180,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
128	卵巣自家移植の最適化条件決定の為の腹壁子宮内膜症病巣の組織構築の検討	本田 律生	病院	700,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
129	卵巣明細胞腺癌における静脈血栓塞栓症の発症メカニズムの解明と治療戦略	坂口 勲	病院	250,066	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
130	腱板付着部の修復におけるScx/Sox9共陽性前駆細胞の制御因子の解明	徳永 琢也	病院	1,600,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
131	肺癌における解糖系酵素PGAMの発現意義解明	甲斐田 剛圭	病院	1,600,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
132	肺癌における補体C5a受容体を介した癌と間質の相互作用に関する研究	高森 啓史	病院	1,200,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会
133	肺癌進展におけるTGFβ-Hippoシグナルのクロストークに関する研究	近本 亮	病院	1,200,000	⑤ 委 独立行政法人日本学術振興会

小計22,842,514

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
134	骨髄不全患者における、PNH型血球割合とPNH関連の臨床症状を経時的にみる観察研究(SUPREMACY)	米村 雄士	病院	240,000	補 ⑤ 一般社団法人日本PNH研究会
135	遅発型ポンペ病患者ハイリスクスクリーニング調査研究	小篠 史郎	病院	49,847	補 ⑤ 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
136	特発性間質性肺炎に対する多施設共同前向き観察研究(NEJ030)	一安 秀範	病院	124,616	補 ⑤ 特定非営利活動法人 North East Japan Study Group
137	硫酸抱合型尿毒症物質産生阻害薬の探索	齋藤 秀之	病院	10,403,935	補 ⑤ 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
138	HTLV-1の疫学研究及び総合対策に資する研究	野坂 生郷	病院	1,076,924	補 ⑤ 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
139	野生型と薬剤耐性B型肝炎ウイルスに強力な活性を發揮する新規治療薬の研究・開発	満屋 裕明	病院	208,349,181	補 ⑤ 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
140	多剤耐性HIV変異株に強力な高いCNS透過性を有する新規抗HIV薬の開発と実用化	満屋 裕明	病院	73,383,881	補 ⑤ 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
141	全国レベルでのデータベースの構築を目指して、SCRUM-Japanへの登録推進と、自施設における臨床データのEDC入力体制の整備	猿渡 功一	病院	200,000	補 ⑤ 国立研究開発法人国立がん研究センター
142	視機能が高齢者の身体機能に与える影響および予防・治療法の標準化に関する研究	谷原 秀信	病院	400,000	補 ⑤ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
143	適格患者の登録・治療・評価、検体保存(JCOGバイオバンク)	野坂 生郷	病院	700,000	補 ⑤ 独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター
144	車中泊・避難所でのエコノミークラス症候群に対する災害時スクリーニング技術の開発	坂本 憲治	病院	153,847	補 ⑤ 国立研究開発法人国立循環器病研究センター
145	臨床症例における免疫応答能、ウイルス発現の解析	野坂 生郷	病院	1,500,000	補 ⑤ 国立大学法人京都大学
146	急性型およびリンパ腫型成人T細胞白血病に対する標準治療としての同種造血幹細胞移植法の確立	野坂 生郷	病院	380,000	補 ⑤ 国立研究開発法人国立がん研究センター
147	赤血球製剤使用ガイドラインの改訂	米村 雄士	病院	123,077	補 ⑤ 国立大学法人名古屋大学
148	慢性疲労症候群の血清学的診断法の新規開発	中根 俊成	病院	1,500,000	補 ⑤ 国立研究開発法人理化学研究所
149	臨床試験と全国患者実態把握によるindolentATLに対する標準治療の開発研究	野坂 生郷	病院	246,154	補 ⑤ 国立大学法人埼玉医科大学
150	PD-1阻害抗体の抗腫瘍効果を増強するミトコンドリア活性化剤を用いた新規併用治療法の開発	佐伯 祥	病院	2,307,693	補 ⑤ 国立大学法人九州大学

小計301,139,155

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
151	高齢者非小細胞肺癌患者に対する抗がん薬のPK/PDに基づく個別化医療研究	佐伯 祥	病院	300,000	補 委 国立研究開発法人 国立がん研究センター
152	造血幹細胞の機能維持を司るリボソーム生合成経路の検証	松井 啓隆	生命科学研究部	2,400,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
153	FAPの次世代型複合的免疫療法によるアミロイド掃討作戦	安東 由喜雄	生命科学研究部	2,300,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
154	ヒトT細胞白血病ウイルス1型による発がん機構の解明	松岡 雅雄	生命科学研究部	4,200,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
155	熱応答性経路活性化による糖尿病及び合併症改善効果の解明と臨床応用への基盤構築	荒木 栄一	生命科学研究部	5,000,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
156	エピゲノム制御機構の破綻によるグリオーマ発生・進展機構の解明と治療標的の探索	武笠 見丈	生命科学研究部	4,400,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
157	革新的治療法開発を目指した抗癌剤耐性に関わる腸内細菌叢の網羅的探索	馬場 秀夫	生命科学研究部	4,300,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
158	細胞環境がもたらす代謝プログラミングの解明に基づく肝発癌増殖進展の制御	佐々木 裕	生命科学研究部	7,700,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
159	治療抵抗性口腔癌の根絶を目指したIL-6シグナル阻害による革新的放射線療法の開発	中山 秀樹	生命科学研究部	7,100,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
160	脳アミロイドアンギオパチーの進行抑制因子SRPX1をスパーサーとする病態解析	井上 泰輝	生命科学研究部	1,000,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
161	封入体筋炎の治療戦略を切り拓くための新たなモデルマウスの開発と治療法の探索	山下 賢	生命科学研究部	1,000,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
162	β 細胞低酸素の病態解明とその制御法に関する研究	佐藤 叔史	生命科学研究部	1,000,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
163	TNF α 変換酵素による白色脂肪細胞ブラウニング制御を応用した生活習慣病治療法構築	本島 寛之	生命科学研究部	800,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
164	非アルコール性脂肪肝炎の進展における肝内マクロファージ増殖の病態生理学的意義	瀬ノ口 隆文	生命科学研究部	1,200,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
165	線維化におけるTGF- β 情報伝達の関与についての研究	尹 浩信	生命科学研究部	900,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
166	CTの被曝低減を目的とした総合的研究	山下 康行	生命科学研究部	700,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会

小計44,300,000

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
167	GISTに対する分子標的薬耐性バイオマーカーの同定とその臨床応用	岩槻 政晃	生命科学研究部	1,300,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
168	ミニチュアヒト肝臓を用いた肝癌の浸潤・転移機序解明による革新的肝癌治療の開発	山下 洋市	生命科学研究部	700,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
169	インスリン分泌調節遺伝子を標的とした難治性下垂体腺腫の機能制御と新規治療法開発	矢野 茂敏	生命科学研究部	900,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
170	悪性グリオーマのBRAF V600E遺伝子変異を標的とした新規治療法の開発	黒田 順一郎	生命科学研究部	1,000,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
171	腎癌におけるマクロファージ関連分子に注目した抗癌剤耐性メカニズムの解明	元島 崇信	生命科学研究部	1,200,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
172	線維柱帯細胞の食作用に対する生理活性物質の影響とその調節機構の解明	藤本 智和	生命科学研究部	1,200,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
173	骨髄播種癌細胞の休眠を担う自律的特性の解明と治療への展開	神力 悟	生命科学研究部	1,100,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
174	アセトアミノフェンの鎮痛機序の検討	山本 達郎	生命科学研究部	1,200,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
175	セリンプロテアーゼによる糸球体障害の分子機序解明ならびに新規CKD治療法への応用	柿添 豊	生命科学研究部	1,200,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
176	慢性腎臓病発症・進展における腎内局所炎症の意義とその制御による新規治療法の探索	向山 政志	生命科学研究部	1,400,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
177	cPLA2 α 制御による糖尿病腎症の進展抑制効果の解明と新規腎症治療法開発	松村 剛	生命科学研究部	1,100,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
178	SGLT2阻害薬による腎糖代謝の変化と糖尿病腎症発症への影響に関する研究	河島 淳司	生命科学研究部	1,100,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
179	骨髄異形成症候群における治療ターゲットとしてのSALL4高発現の意義解析	立津 央	生命科学研究部	1,200,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
180	ゴーシェー病II型患者由来iPS細胞を用いた新規治療薬の開発	城戸 淳	生命科学研究部	1,300,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委
181	低ホスファターゼ症の新生児スクリーニング	中村 公俊	生命科学研究部	1,200,000	(補) 独立行政法人 日本学術振興会 委

小計17,100,000

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
182	アルツハイマー病と特発性正常圧水頭症の発現機序における相互作用についての研究	橋本 衛	生命科学研究部	1,200,000	(補) 独立行政法人 委 日本学術振興会
183	三次元放射線治療における体格調整放射線治療計画(PhART)提唱に向けた基礎研究	大屋 夏生	生命科学研究部	1,000,000	(補) 独立行政法人 委 日本学術振興会
184	サルコペニアにおける免疫学的癌微小環境の意義	今井 克憲	生命科学研究部	1,200,000	(補) 独立行政法人 委 日本学術振興会
185	非小細胞肺癌術中迅速リンパ節転移診断のためのCDCA1-OSNA法の開発	鈴木 実	生命科学研究部	800,000	(補) 独立行政法人 委 日本学術振興会
186	脳原発悪性リンパ腫における上皮-間葉転換誘導因子の解析に基づく診断と治療への展開	牧野 敬史	生命科学研究部	1,600,000	(補) 独立行政法人 委 日本学術振興会
187	舌癌に対する制御性T細胞除去療法の研究	折田 頼尚	生命科学研究部	800,000	(補) 独立行政法人 委 日本学術振興会
188	網膜色素上皮細胞とマイクログリアの相互作用と眼内増殖膜への影響に関する研究	高橋 枝里	生命科学研究部	1,100,000	(補) 独立行政法人 委 日本学術振興会
189	緑内障病態におけるメカノストレスとHippo-YAP/TAZシグナルの研究	井上 俊洋	生命科学研究部	1,300,000	(補) 独立行政法人 委 日本学術振興会
190	傷害網膜における組織再構築に関わる細胞間シグナルの解明とその制御機構の探索	福島 美紀子	生命科学研究部	1,200,000	(補) 独立行政法人 委 日本学術振興会
191	口腔癌におけるC5a-C5a受容体系の癌促進作用解析と標的治療への応用	尾木 秀直	生命科学研究部	1,100,000	(補) 独立行政法人 委 日本学術振興会
192	認知症介護者における介護ストレスと介護に対する意味付け	小山 明日香	生命科学研究部	1,300,000	(補) 独立行政法人 委 日本学術振興会
193	マルチモダリティイメージングと機械学習による頭頸部癌の新たな節外浸潤診断法の開発	東家 亮	生命科学研究部	1,200,000	(補) 独立行政法人 委 日本学術振興会
194	進行肝細胞癌に対する薬物治療効果予測法の確立	田中 基彦	生命科学研究部	1,500,000	(補) 独立行政法人 委 日本学術振興会
195	非虚血性心不全における冠微小循環障害のメカニズム解明と治療戦略開発	辻田 賢一	生命科学研究部	1,200,000	(補) 独立行政法人 委 日本学術振興会
196	浸透圧応答転写因子NFAT5の慢性腎障害進展における意義	泉 裕一郎	生命科学研究部	1,000,000	(補) 独立行政法人 委 日本学術振興会

小計17,500,000

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
197	メラノーマに対する遺伝子改変iPS細胞由来M1マクロファージ療法の開発	福島 聡	生命科学研究部	1,200,000	①補 委 独立行政法人 日本学術振興会
198	リボソーム生合成障害が造血器腫瘍の発症・進展に果たす役割の解明	松井 啓隆	生命科学研究部	1,200,000	①補 委 独立行政法人 日本学術振興会
199	PU.1発現低下による成熟B細胞腫瘍発症メカニズムの解明と治療応用への基礎研究	奥野 豊	生命科学研究部	1,400,000	①補 委 独立行政法人 日本学術振興会
200	活性化ストローマ細胞とのクロストークを介した炎症性発癌メカニズムの解明	三宅 慧輔	生命科学研究部	1,200,000	①補 委 独立行政法人 日本学術振興会
201	胆汁中エクソソームmRNA、miRNAを用いた移植後拒絶反応診断	菅原 寧彦	生命科学研究部	200,000	①補 委 独立行政法人 日本学術振興会
202	内胸動脈の細胞を立体化して新たに内胸動脈を作る基盤技術開発	福井 寿啓	生命科学研究部	1,100,000	①補 委 独立行政法人 日本学術振興会
203	非小細胞肺癌の発生、進行におけるERβとGPER1/GPR30の働きの解明	池田 公英	生命科学研究部	1,800,000	①補 委 独立行政法人 日本学術振興会
204	淡明細胞型腎細胞癌におけるVBC-Cul2複合体下流の新規治療標的分子の探索	神波 大己	生命科学研究部	1,800,000	①補 委 独立行政法人 日本学術振興会
205	高悪性口腔癌が分泌するエクソソームによる腫瘍微小環境制御機構の解明と治療応用	吉田 遼司	生命科学研究部	1,200,000	①補 委 独立行政法人 日本学術振興会
206	ヒトT細胞白血病ウイルス1型の血液幹細胞への感染を介する新たな潜伏感染拡大機構	松岡 雅雄	生命科学研究部	2,500,000	①補 委 独立行政法人 日本学術振興会
207	出生児低体重モデルにおける心筋再生・病態応答能の検討	有馬 勇一郎	生命科学研究部	1,600,000	①補 委 独立行政法人 日本学術振興会
208	声帯におけるビタミンAの分布と動態	西本 康兵	生命科学研究部	1,400,000	①補 委 独立行政法人 日本学術振興会
209	アルツハイマー病の取り繕い反応—なぜ、そして、どのように取り繕うのか?—	松下 正輝	生命科学研究部	1,000,000	①補 委 独立行政法人 日本学術振興会
210	TN乳癌におけるエクソソームmiRNAを用いた治療抵抗性機序の解明	末田 愛子	生命科学研究部	1,600,000	①補 委 独立行政法人 日本学術振興会
211	DAAs治療後の血清Exosome中miRNAの変化が肝発癌に与える影響の解析	渡邊 丈久	生命科学研究部	1,300,000	①補 委 独立行政法人 日本学術振興会

小計20,500,000

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
212	進行肺癌を対象とした腫瘍免疫抑制回避と能動免疫を併用するがん免疫療法の臨床研究	富田 雄介	生命科学研究部	1,200,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
213	新規HIVプロウイルス編集システムとゲノム編集促進薬によるHIV排除法の開発	中村 朋文	生命科学研究部	1,500,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
214	プロラクチンを介した子宮内膜癌の発癌・増殖機構の解明と新たな予防・治療戦略	山口 宗影	生命科学研究部	1,200,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
215	革新的治療法開発を目指した腸内細菌叢とサルコペニアの網羅的解析	馬場 秀夫	生命科学研究部	2,400,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
216	全身性強皮症の皮膚線維化におけるトロンボスポンジン1の役割の検討	牧野 雄成	生命科学研究部	1,000,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
217	マイクロRNAによる心不全病態形成の分子機構解明	宮田 敬士	生命科学研究部	900,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
218	心臓弁膜症がもたらす心筋壁運動と血流異常に関するCTベクトル機能解析と臨床応用	宇都宮 大輔	生命科学研究部	600,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
219	多層検出器CTによるがん治療効果の画像バイオマーカーおよび予後予測システムの開発	中浦 猛	生命科学研究部	500,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
220	多層検出器CTを用いた冠動脈脆弱性プラークの新たな定量的評価法の開発	尾田 済太郎	生命科学研究部	500,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
221	心臓CTにおいて造影剤が被曝へ与える影響の調査および被曝低減法の確立	木藤 雅文	生命科学研究部	1,300,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
222	多系統蛋白質症(MSP)の疾患概念確立および診断基準作成、診療体制構築に関する研究	山下 賢	生命科学研究部	1,308,000	(補)委 厚生労働省
223	強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究	尹 浩信	生命科学研究部	7,200,000	(補)委 厚生労働省
224	先天代謝異常症の生涯にわたる診療支援を目指したガイドラインの作成・改訂および診療体制の整備に向けた調査研究	中村 公俊	生命科学研究部	16,377,000	(補)委 厚生労働省
225	外科領域における抜本的なタスクシフティングの手法についての研究	馬場 秀夫	生命科学研究部	2,693,000	(補)委 厚生労働省

計653,203,614

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭者名の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Saruwatari K, Ikeda T, Saeki S, et al.	呼吸器内科	Upfront Cranial Radiotherapy Followed by Erlotinib Positively Affects Clinical Outcomes of Epidermal Growth Factor Receptor-mutant Non-small Cell Lung Cancer With Brain Metastases.	Anticancer Res. 2019 Feb;39:923-931.	Original Article
2	Saruwatari K, Sato R, Nakane S, et al.	呼吸器内科	The Risks and Benefits of Immune Checkpoint Blockade in Anti-AChR Antibody-Seropositive Non-Small Cell Lung Cancer Patients.	Cancers. 2019 Jan 24;11.	Original Article
3	Hirosako S, Nakamura K, Hamada S, et al.	呼吸器内科	Respiratory evaluation of the risk for postoperative pulmonary complications in patients who preoperatively consulted pulmonologists: Studying both patients who underwent and who precluded planned surgery.	Respir Investig. 2018 Nov;56:448-456.	Original Article
4	Akaike K, Saruwatari K, Okabayashi H, et al.	呼吸器内科	Negative Impact of Coexisting Interstitial Lung Disease on Clinical Outcomes in Small-cell Lung Cancer Patients.	Anticancer Res. 2018 Nov;38:6543-6550.	Original Article

小計4

5	Migiyama Y, Anai M, Kashiwabara K, et al.	呼吸器内科	Lung abscess following bronchoscopy due to multidrug-resistant <i>Capnocytophaga sputigena</i> adjacent to lung cancer with high PD-L1 expression.	J Infect Chemother. 2018 Oct;24:852-855.	Case report
6	Horio Y, Takamatsu K, Tamanoi D, et al.	呼吸器内科	Trousseau's syndrome triggered by an immune checkpoint blockade in a non-small cell lung cancer patient.	Eur J Immunol. 2018 Oct;48:1764-1767.	Case report
7	Ishizuka S, Sakata S, Yoshida C, et al.	呼吸器内科	Successful treatment by pembrolizumab in a patient with end-stage renal disease with advanced non-small cell lung cancer and high PD-L1 expression.	Respir Investig. 2018 Jul;56:361-364.	Case report
8	Sakata S, Matsuoka Y, Kawahara K	呼吸器内科	Severe interstitial pneumonia associated with anti-PD-1 immune checkpoint antibody after talc slurry pleurodesis.	Respir Investig. 2018 Mar;56:195-198.	Case report
9	Sakata S, Sakamoto Y, Takaki A	呼吸器内科	Reversible Restrictive Lung Disease in Pseudomesotheliomatous Carcinoma in a Lung Harboring a HER2-mutation.	Intern Med. 2018 Aug 1;57:2223-2226.	Case report

小計5

10	Sakata S, Saeki S, Terasaki Y	呼吸器内科	A Favorable Response to Levetiracetam in a Patient with Metastatic Adenoid Cystic Carcinoma.	Intern Med. 2018 Mar 1;57:721-724.	Case report
11	Miyamoto H, Naoe H, Oda Y	消化器内科	Impact of retroflexion in the right colon after repeated forward-view examinations.	JGH Open 2018 Sep 10; 2(6): 282-287	Original Article
12	Inoue, Y., Endo, S., Matsuno, N.,et al.	血液内科・膠原病内科	Safety of mogamulizumab for relapsed ATL after allogeneic hematopoietic cell.	Bone Marrow Transplant. Epub 2018 Aug 16.	Original Article
13	Inoue Y, Fuji S, Tanosaki R,	血液内科・膠原病内科	Prognostic importance of pretransplant disease status for posttransplant outcomes in patients with adult T cell leukemia/lymphoma.	Bone Marrow Transplant. 53(9):1105-15, 2018 Sep	Original Article
14	Inoue Y, Endo S, Matsuno N,	血液内科・膠原病内科	Safety of mogamulizumab for relapsed ATL after allogeneic hematopoietic cell transplantation	Bone Marrow Transplant. 54(2):338-42, 2019 Feb	Original Article

15	Yamamura A, Kikukawa Y, Tokunaga K,	血液内科・膠原病内科	Pancytopenia and Myelodysplastic Changes in Aceruloplasminemia: A Case with a Novel Pathogenic Variant in the Ceruloplasmin Gene.	Internal Med.;57(13):1905-1910, 2018 Jul	Case report
16	Endo S, Nishimura N, Kawano Y,	血液内科・膠原病内科	MUC1/KL-6 expression confers an aggressive phenotype upon myeloma cells:	Biochemical and Biophysical Research Communications. 507(1-4):246-252, 2018 Dec	Original Article
17	Kawano Y, Zavidij O, Park J,	血液内科・膠原病内科	Blocking IFNAR1 inhibits multiple myeloma-driven Treg expansion and immunosuppression	The Journal of Clinical Investigation. 128(6):2487-2499, 2018 Jun	Original Article
18	Sakakida K, Wei FY, Senokuchi T, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	The eperisone for diabetes with impaired tRNA(EDIT) study group: Study desirn of a phase II clinical trial to assess the efficacy and safety of eperisone in Japanese type 2 diabetes patients with risk and non-risk alleles of CDKAL1.	Acta Med Okayama. 2018 Aug;72(4):423-426.	Original Article
19	Araki E, Senokuchi T, Furukawa N	糖尿病・代謝・内分泌内科	Impacts of tight multifactorial intervention in patients with type 2 diabetes: Implications from J-DOIT3.	J Diabetes Investig. 2018 Sep;9(5):1022-1024.	Review

20	Kondo T, Miyakawa N, Motoshima H, et al.	糖尿病・代謝・内分泌 内科	Impacts of the 2016 Kumamoto Earthquake on glycemic control in patients with diabetes.	J Diabetes Investig. 2019 Mar;10(2):521- 530.	Original Article
21	Kondo T, Nakamura M, Kawashima J, et al.	糖尿病・代謝・内分泌 内科	Hyperemesis gravidarum followed by refeeding syndrome causes electrolyte abnormalities induced rhabdomyolysis and diabetes insipidus.	Endocr J. 2019 Mar 28;66(3):253-258.	Case report
22	Kitano S, Kondo T, Matsuyama R, et al.	糖尿病・代謝・内分泌 内科	Impact of hepatic HSP72 on insulin signaling.	Am J Physiol Endocrinol Metab. 2019 Feb 1;316(2):E305- E318.	Original Article
23	Kaikita K, Yoshimura H, Ishii M, et al.	循環器内科	Tailored Adjunctive Cilostazol Therapy Based on CYP2C19 Genotyping in Patients with Acute Myocardial Infarction - The CALDERA-GENE Study.	Circ J. 2018 May25; 82(6):1517-1525	Original Article
24	Sueta D, Hokimoto S, Hashimoto Y, et al.	心血管治療先端医療 寄附講座	Venous Thromboembolism Caused by Spending a Night in a Vehicle After an Earthquake (Night in a Vehicle After the 2016 Kumamoto Earthquake).	Can J Cardiol 2018 Jun;34(6):813.e9- 813.e10	Original Article

25	Arima Y, Nishiyama K, Izumiya Y, et al.	循環器内科	Fetal Origins of Hypertension.	Adv Exp Med Biol. 2018 Jun; 1012:41-48	Review
26	Sakamoto K, Nagamatsu S, Yamamoto E, et al.	循環器内科	Atherosclerotic coronary plaque development visualized by in vivo coronary imaging.	Circ J. 2018 Jun 25; 82(7):1727-1734	Original Article
27	Yamabe H, Kanazawa H, Ito M, et al.	不整脈先端医療寄附 講座	Slow Potential at the Entrance of the Slow Conduction Zone in the Reentry Circuit of a Verapamil-Sensitive Atrial Tachycardia Originating From the Atrioventricular Annulus.	J Am Heart Assoc. 2018 Jul; 7(14): e009223	Original Article
28	Nishihara T, Tokitsu T, Sueta D, et al.	循環器内科	Serum Potassium and Cardiovascular Events in Heart Failure with Preserved Left Ventricular Ejection Fraction Patients.	Am J Hypertens. 2018 Sep 11; 31(10):1098- 1105	Original Article
29	Fujisue K, Shirakawa T, Nakamura S, et al.	循環器内科	Dose-dependent INhibitory effect of rosuVastatin In Japanese patienTs with Acute myocardial infarCTION on serum concentration of matrix metalloproteinases - INVITATION trial.	J Cardiol. 2018 Oct; 72(4):350-355	Original Article

小計5

30	Fujisue K, Nagamatsu S, Shimomura H, et al.	循環器内科	Impact of statin-ezetimibe combination on coronary atheroma plaque in patients with and without chronic kidney disease – Sub-analysis of PRECISE-IVUS trial.	Int J Cardiol. 2018 Oct; 268:23-26	Original Article
31	Ito M, Yamabe H, Koyama J, et al.	専門医療実践学寄附講座	Analysis for the Primary Predictive Factor for the Incidence of Esophageal Injury after Ablation of Atrial Fibrillation.	J Cardiol. 2018 Dec; 72(6):480-487	Original Article
32	Arima Y, Izumiya Y, Ishida T, et al.	循環器内科	Myocardial ischemia suppresses ketone body utilization.	J Am Coll Cardiol. 2019 Jan 22; 73(2):246-247	Original Article
33	Sueta D, Utsunomiya D, Izumiya Y, et al.	心血管治療先端医療寄附講座	Novel Assessment of Retrospective On-demand Analysis of Venous Thromboembolism by Dual-layer Spectral-detector CT.	J Cardiol Cases 2018 May 31;18(3):88-91.	Case report
34	Takae M, Yamamoto E, Fujisue K, et al.	循環器内科	Coronary Blood Flow Volume Change is Negatively Associated with Platelet Aggregability in Patients with non-Obstructive Ischemic Heart Disease who have no Anti-platelet Agents.	Int J Cardiol. 2019 Feb 15; 277:3-7	Original Article

35	Sueta D, Oda S, Izumiya Y, et al.	心血管治療先端医療 寄附講座	Comprehensive assessment of takotsubo cardiomyopathy by cardiac computed tomography.	Emerg Radiol. 2019 Feb; 26(1):109-112	Case report
36	Tsuda Y, Yamanaka K, Toyoshima R	脳神経内科	Development of transgenic Caenorhabditis elegans expressing human transthyretin as a model for drug screening	Sci Rep 8:17884, 2018 Dec	Original Article
37	Masuda T, Ueda M, Kitajima M	脳神経内科	Teaching NeuroImages: Morphology of lumbosacral dorsal root ganglia and plexus in hereditary transthyretin amyloidosis	Neurology 91: e1834- e1835, 2018 Nov	Original Article
38	Tawara N, Yamashita S, Kawakami K	脳神経内科	Muscle-dominant wild- type TDP-43 expression induces myopathological changes featuring tubular aggregates and TDP-43- positive inclusions	Exp Neurol 309: 169- 180, 2018 Nov	Original Article
39	Takamatsu K, Nakane S, Suzuki S	脳神経内科	Immune checkpoint inhibitors in the onset of myasthenia gravis with hyperCKemia	Ann Clin Transl Neurol 5: 1421-1427, 2018 Sep	Original Article

40	Nakane S, Mukaino A, Higuchi O	分子神経治療学寄附 講座	Autoimmune autonomic ganglionopathy: an update on diagnosis and treatment	Expert Rev Neurother 18: 953-965, 2018 Dec;	Original Article
41	Mukaino A, Tsuda M, Yamashita S	分子神経治療学寄附 講座	Cerebrotendinous xanthomatosis presenting with extensive cerebral cortex symptoms: A case report.	Clin Neurol Neurosurg 174: 217-219, 2018 Nov	Case report
42	Yamashita S, Tawara N	脳神経内科	Determination of cN1A autoantibodies by cell- based immunofluorescence cytochemistry.	Methods Mol. Biol 1901: 89-94, 2019 Jan	Original Article
43	Okamoto K, Fukui T.	心臓血管外科	Aorto-bilateral carotid artery bypass with off- pump coronary artery bypass grafting.	J Card Surg. 2018 Jul;33(7):395-396	Case report
44	Okamoto K, Koga A, Tazume H,	心臓血管外科	Early and Mid-Term Outcomes after Vascular Reconstruction for Patients with Lower- Extremity Soft-Tissue Malignant Tumors.	Ann Vasc Dis. 2018;11:228-232.	Original Article

45	Tatsuya Y, Kunimasa O, Yamato M, et al.	呼吸器外科	Significance of Tsukushi in lung cancer	Lung Cancer, March 2019, 131, 104-111	Original Article
46	Kiyozumi Y, Iwatsuki, M, Kurashige, J, et al.	消化器外科	PLOD2 as a potential regulator of peritoneal dissemination in gastric cancer	Int J Cancer. 2018 Sep; 143(5):1202-1211	Original Article
47	Miyata T, Yamashita, Y, Baba Y, et al.	消化器外科	Prognostic value of LINE-1 methylation level in 321 patients with primary liver cancer including hepatocellular carcinoma and intrahepatic cholangiocarcinoma	Oncotarget 2018 Apr; 9(29):20795-20806	Original Article
48	Yoshida N, Baba Y, Miyamoto Y, et al.	消化器癌先端治療開 発学寄附講座	Prophylaxis of postoperative venous thromboembolism using enoxaparin after esophagectomy: a prospective observational study of effectiveness and safety	Ann Surg Oncol 2018 Aug; 25(8):2434-2440	Original Article
49	Yoshida N, Baba H.	消化器癌先端治療開 発学寄附講座	The C-reactive protein/albumin ratio may predict the long-term outcome in patients with malignant pleural mesothelioma	Ann Surg Oncol 2018 Jun; 25(6):1471-1472	Others

小計5

50	Shiraishi Y, Imai K, Yamashita Y, et al.	消化器外科	Hepatobiliary and pancreatic: segmental arterial mediolysis of pancreaticoduodenal artery accompanied by acute pancreatitis and duodenal obstruction	J Gastroenterol Hepatol 2018 Sep; 33(9):1564	Original Article
51	Nakagawa S, Okabe H, Ouchi M, et al.	消化器外科	Enhancer of zeste homolog 2 (EZH2) regulates tumor angiogenesis and predicts recurrence and prognosis of intrahepatic cholangiocarcinoma	HPB (Oxford) 2018 Oct; 20(10):939-948	Original Article
52	Nakagawa S, Yamashita Y, Umezaki N, et al.	消化器外科	Serum marker score based on prognostic nutrition index, carcinoembryonic antigen, and carbohydrate antigen 19-9 Is associated with recurrence for patients undergoing surgery for pancreatic ductal adenocarcinoma	Pancreas 2018 Oct; 47(9):1130-1134	Original Article
53	Yoshida N, Nakamura K, Kuroda, D, et al.	消化器癌先端治療開 発学寄附講座	Preoperative smoking cessation is integral to the prevention of postoperative morbidities in minimally invasive esophagectomy	World J Surg 2018 Sep; 42(9):2902-2909	Original Article
54	Okabe H, Yoshizumi T, Yamashita Y, et al.	消化器外科	Histological architectural classification determines recurrence pattern and prognosis after curative hepatectomy in patients with hepatocellular carcinoma	PLoS One 2018 Sep; 13(9):e0203856	Original Article

小計5

55	Miyata T, Yamashita Y, Higashi T, et al.	消化器外科	The prognostic impact of controlling nutritional status (CONUT) in Intrahepatic cholangiocarcinoma following curative hepatectomy: A retrospective single institution study	World J Surg 2018 Apr; 42(4):1085-1091	Original Article
56	Kiyozumi Y, Yoshida N, Ishimoto T, et al.	消化器外科	Prognostic factors of salvage esophagectomy for residual or recurrent esophageal squamous cell carcinoma after definitive chemoradiotherapy	World J Surg 2018 Sep; 42(9):2887-2893	Original Article
57	Yoshida N, Baba Y, Kuroda D, et al.	消化器癌先端治療開 発学寄附講座	Clinical utility of exhaled carbon monoxide in assessing preoperative smoking status and risks of postoperative morbidity after esophagectomy	Dis Esophagus 2018 Sep; 31(9)	Original Article
58	Sawayama H, Iwatsuki M, Kuroda D, et al.	消化器外科	Total iron-binding capacity is a novel prognostic marker after curative gastrectomy for gastric cancer	Int J Clin Oncol 2018 Aug; 23(4):671-680	Original Article
59	Imai K, Yamashita Y, Miyamoto Y, et al.	消化器外科	The predictors and oncological outcomes of repeat surgery for recurrence after hepatectomy for colorectal liver metastases	Int J Clin Oncol 2018 Oct; 23(5):908-916	Original Article

小計5

60	Miyamoto Y, Tsuji A, Tanioka H, et al.	消化器外科	Correction to: S-1 and irinotecan plus bevacizumab as second-line chemotherapy for patients with oxaliplatin-refractory metastatic colorectal cancer: a multicenter phase II study in Japan (KSCC1102)	Int J Clin Oncol 2018 Apr; 23(2):402	Others
61	Sawayama H, Iwatsuki M, Kuroda D, et al.	消化器外科	The association of the lymph node ratio and serum carbohydrate antigen 19-9 with early recurrence after curative gastrectomy for gastric cancer	Surg Today 2018 Nov; 48(11):994-1003	Original Article
62	Yoshida N, Baba H,	消化器癌先端治療開発学寄附講座	Neoadjuvant chemoradiotherapy followed by surgery is associated with better survival outcomes in patients with locally advanced esophageal squamous cell carcinoma	J Thorac Dis 2018 Sep; 10(Suppl 26):S3067-S3068	Others
63	Yoshida N, Baba H,	消化器癌先端治療開発学寄附講座	Clinical usefulness of the surgical Apgar score for estimating short-term and prognostic outcomes after esophagectomy	J Thorac Dis 2018 Jul; 10(Suppl 18):S2103-S2105	Others
64	Yoshida N, Akiyama T, Kinoshita K, et al.	消化器癌先端治療開発学寄附講座	Percutaneous transluminal plasty: a novel approach for refractory anastomotic stricture after esophagectomy	Esophagus 2018 Oct; 15(4):301-303	Original Article

小計5

65	Yamashita Y, Imai K, Yusa T, et al.	消化器外科	Microvascular invasion of single small hepatocellular carcinoma ≤ 3 cm: Predictors and optimal treatments	Ann Gastroenterol Surg 2018 May; 2(3):197-203	Original Article
66	Eto K, Hiki N, Kumagai K, et al.	消化器外科	Prophylactic effect of neoadjuvant chemotherapy in gastric cancer patients with postoperative complications	Gastric Cancer 2018 Jul; 21(4):703-709	Original Article
67	Kiyozumi Y, Iwatsuki M, Yamashita K, et al.	消化器外科	Update on targeted therapy and immune therapy for gastric cancer, 2018	J Cancer Metastasis Treat 2018 Jun; 4:31	Review
68	Imai K, Benitez C. C, Allard M. A, et al.	消化器外科	Impact of surgical treatment for recurrence after 2-stage hepatectomy for colorectal liver metastases, on patient outcome	Ann Surg 2019 Feb; 269(2):322-330	Original Article
69	Iwatsuki M, Yamamoto H, Miyata H, et al.	消化器外科	Effect of hospital and surgeon volume on postoperative outcomes after distal gastrectomy for gastric cancer based on data from 145,523 Japanese patients collected from a nationwide web-based data entry system	Gastric Cancer 2019 Jan; 22(1):190-201	Original Article

70	Yamashita Y, Imai K, Kaida T, et al.	消化器外科	Multimodal radiofrequency ablation versus laparoscopic hepatic resection for the treatment of primary hepatocellular carcinoma within Milan criteria in severely cirrhotic patients: long-term favorable outcomes over 10 years	Surg Endosc 2019 Jan; 33(1):46-51	Original Article
71	Hiyoshi Y, Miyamoto Y, Kato R, et al.	消化器外科	Laparoscopic sigmoidectomy and double-stapling technique anastomosis via needlescopic surgery – a video vignette	Colorectal Dis 2019 Jan; 21(1):122-123	Letter
72	Hiyoshi Y, Miyamoto Y, Kiyozumi Y, et al.	消化器外科	CT-guided percutaneous radiofrequency ablation for lung metastases from colorectal cancer	Int J Clin Oncol 2019 Mar; 24(3):288-295	Original Article
73	Miyamoto Y, Hiyoshi Y, Akiyama T, et al.	消化器外科	Low skeletal muscle mass before salvage-line chemotherapy Is a poor prognostic factor in patients with refractory metastatic colorectal cancer	Digestion 2019 Jan; 99(1):79-85	Original Article
74	Nomoto D, Yoshida N, Akiyama T, et al.	消化器外科	Influence of neoadjuvant chemotherapy on short-term outcomes after minimally invasive esophagectomy for esophageal cancer	Anticancer Res 2019 Jan; 39(1):471-475	Original Article

75	Yoshida N, Baba H.	消化器癌先端治療開 発学寄附講座	Risk factors for chylothorax after esophagectomy	Journal of Thoracic Disease 2019 Mar; 11(S3):S196-S197	Others
76	Yamashita Y, Imai K, Nakagawa S, et al.	消化器外科	Ultrasonography-guided suction thrombectomy for an isolated portal vein thrombus in liver surgery	In Vivo 2019 Jan-Feb; 33(1):209-212	Original Article
77	Iwatsuki M, Harada K, Iwagami S, et al.	消化器外科	Neoadjuvant and adjuvant therapy for gastrointestinal stromal tumors	Ann Gastroenterol Surg 2019 Jan; 3(1):43-49	Review
78	Yamao T, Yamashita Y, Imai K, et al.	消化器外科	Clinical significance of preoperative hepatocellular carcinoma with high lens culinaris agglutinin-reactive fraction of alpha- fetoprotein, but low alpha-fetoprotein	Anticancer Res 2019 Feb; 39(2):883-889	Original Article
79	Koga Y, Beppu T, Miyata T	消化器外科	Predicting poorly differentiated hepatocellular carcinoma that meets the milan criteria	Anticancer Res 2018 Jul; 38(7):4093-4099	Original Article

80	Koga Y, Beppu T, Imai K, et al.	消化器外科	Complete remission of advanced hepatocellular carcinoma following transient chemoembolization and portal vein ligation	Surg Case Rep 2018 Aug; 4(1):102	Case report
81	Umezaki N, Hashimoto D, Nakagawa S, et al.	消化器外科	Number of acinar cells at the pancreatic stump predicts pancreatic fistula after pancreaticoduodenectomy	Surg Today 2018 Aug; 48(8):790-795	Original Article
82	Umezaki N, Hashimoto D, Nakagawa S, et al.	消化器外科	Cystic gastric metastasis from pancreatic cancer	Surg Case Rep 2018 Apr; 4(1):31	Case report
83	Umezaki N, Hashimoto D, Yamashita Y, et al.	消化器外科	Neuroendocrine tumor of the hilar bile duct	Anticancer Res 2019 Feb; 39(2):903-907	Original Article
84	Yagi T, Baba Y, Ishimoto T, et al.	消化器外科	PD-L1 expression, tumor-infiltrating lymphocytes, and clinical outcome in patients with surgically resected esophageal cancer	Ann Surg 2019 Mar; 269(3):471-478	Original Article

小計5

85	Uchihara T, Yoshida N, Baba Y, et al.	消化器外科	Risk factors for pulmonary morbidities after minimally invasive esophagectomy for esophageal cancer	Surg Endosc 2018 Jun; 32(6):2852-2858	Original Article
86	Itoyama R, Yamashita Y, Nakao Y, et al.	消化器外科	Carcinosarcoma of Vater's papilla: case report of a rare neoplasm and review of the literature	Surg Case Rep 2019 Jan; 5(1):13	Case report
87	Sakamoto Y, Iwatsuki M, Sakata K, et al.	消化器外科	Laparoscopic omental filling with intraoperative endoscopy for a perforated duodenal ulcer	Surg Today 2018 Nov; 48(11):1031-1034	Others
88	Daitoku N, Miyamoto Y, Tokunaga R, et al.	消化器外科	Controlling nutritional status (CONUT) score is a prognostic marker in metastatic colorectal cancer patients receiving first-line chemotherapy	Anticancer Res 2018 Aug; 38(8):4883-4888	Others
89	Nakao Y, Okabe H, Yamashita Y, et al.	消化器外科	A case of acute perforated cholecystitis with intracystic tumor thrombus of hepatocellular carcinoma	Int J Clin Oncol 2019 Jan; 8(1):43-45	Case report

小計5

90	Goto-Yamaguchi L, Yamamoto-Ibusuki M, Yamamoto Y, et al	乳腺・内分泌外科	Therapeutic predictors of neoadjuvant endocrine therapy response in estrogen receptor-positive breast cancer with reference to optimal gene expression profiling.	Breast Cancer Res Treat. 2018 Nov;172(2):353-362.	Original Article
91	Fujiki Y, Yamamoto Y, Sueta A,	乳腺・内分泌外科	APOBEC3B gene expression as a novel predictive factor for pathological complete response to neoadjuvant chemotherapy in breast cancer.	Oncotarget. 2018 Jul 17;9(55):30513-30526	Original Article
92	Takeshita T, Yamamoto Y, Yamamoto-Ibusuki M	乳腺・内分泌外科	ESR1 and PIK3CA mutational status in serum and plasma from metastatic breast cancer patients: A comparative study.	Cancer Biomark. 2018 Jul;;22(2):345-350.	Original Article
93	Yamamoto Y, Iwata H, Ueno T,	乳腺・内分泌外科	A randomized, open-label, Phase III trial of pertuzumab retreatment in HER2-positive locally advanced/metastatic breast cancer patients previously treated with pertuzumab, trastuzumab and chemotherapy: the Japan Breast Cancer Research Group-M05 PRECIOUS study.	Jpn J Clin Oncol. 2018 Sep 1;48(9):855-859.	Others
94	Hibi T, Sugawara Y.	小児外科・移植外科	Locoregional therapy as a bridge to liver transplantation for hepatocellular carcinoma within Milan criteria :from a transplant oncology viewpoint	Hepatobiliary Surg Nutr. 2018 Apr;7(2):134-135	Others

95	Isono K, Ohya Y, Lee KJ.	小児外科・移植外科	Pretransplant trends in α -fetoprotein levels as a predictor of recurrence after living donor liver transplantation for unresectable hepatoblastoma: A single-institution experience	Pediatr Transplant. 2018 Aug;22(5):e13221	Original Article
96	Hibi T, Eguchi S, Egawa H.	小児外科・移植外科	Evolution of living donor liver transplantation: a global perspective	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2018 Aug;25(8):388-389.	Others
97	Honda M, Sugawara Y, Kadohisa M.	小児外科・移植外科	Long-term Outcomes of ABO-incompatible Pediatric Living Donor Liver Transplantation	Transplantation. 2018 Oct;102(10):1702-1709	Original Article
98	Uto K, Sakamoto S, Que W.	小児外科・移植外科	Hydrogen-rich solution attenuates cold ischemia-reperfusion injury in rat liver transplantation	BMC Gastroenterol. 2019 Feb 8;19(1):25	Original Article
99	Hibi T, Sapisochin G.	小児外科・移植外科	What is transplant oncology?	Surgery. 2019 Feb;165(2):281-285	Review

100	Kurahashi R, Fukushima Y, Motoshima T, et al.	泌尿器科	Advanced prostate cancer discovered with cancerous peritonitis: Case report.	Urol Case Rep. 2018 Oct 22;22:31-33.	Case report
101	Kodera C, Ohba T, Hashimoto T, et al.	産科婦人科	Sac-Type Congenital Diaphragmatic Hernia: A Case Report of Two Siblings.	Case Rep Obstet Gynecol. 2018 Aug ; 18: 3270526	Case report
102	Imamura Y, Tashiro H, Tseng-Ayush G, et al.	産科婦人科	Novel therapeutic strategies for advanced ovarian cancer by using induced pluripotent stem cell-derived myelomonocytic cells producing interferon beta.	Cancer Sci. 2018 Nov; 109: 3403-3410	Original Article
103	Indo Y	小児科	NGF-dependent neurons and neurobiology of emotions and feelings: Lessons from congenital insensitivity to pain with anhidrosis	Neuroscience and Biobehavioral Reviews 2018 April; 87: 1-16	Review
104	Hirashima K, Kido J, Matsumoto S, et al.	小児科	Acute pancreatitis in a patient with glycogen storage disease type 1a.	Pediatrics and neonatology, 2019 Jun;60(3):348-349	Letter

105	Kido J, Matsumoto S, Sakamoto R, et al.	小児科	Recovery of severe acute liver failure without transplantation in patients with Wilson disease.	Pediatric transplantation, 2018 Dec;22(8):e13292	Case report
106	Kido J, Matsumoto S, Mitsubuchi H, et al	小児科	Early liver transplantation in neonatal-onset and moderate urea cycle disorders may lead to normal neurodevelopment.	Metabolic brain disease, 2018 Oct;33(5):1517-1523	Original Article
107	Kido J, Nishi N, Matsumoto T	小児科	The Oral Provocation Test for Raw Egg in Patients with Hen Egg Allergy	International archives of allergy and immunology, 2018 Aug;177(1):40-44	Original Article
108	Momosaki K, Kido J, Matsumoto S, et al.	小児科	High-risk screening for Gaucher disease in patients with neurological symptoms.	Journal of human genetics, 2018 Jun;63(6):717-721.	Original Article
109	Fukuda M, Yoshizawa T, Karim MF, et al.	整形外科	SIRT7 has a critical role in bone formation by regulating lysine acylation of SP7/Osterix.	Nature communications. 2018 Jul 19;9(1):2833.	Original Article

小計5

110	Sugimoto K, Nakamura T, Tokunaga T, et al.	整形外科	Matrix metalloproteinase promotes elastic fiber degradation in ligamentum flavum degeneration.	PloS one. 2018 Aug 1;13(8):e0200872.	Original Article
111	Masuda T, Kondo E, Onodera J, et al.	整形外科	Effects of Remnant Tissue Preservation on Tunnel Enlargement after Anatomic Double-Bundle Anterior Cruciate Ligament Reconstruction using the hamstring tendon	Orthopaedic journal of sports medicine. 2018 Dec 6;6(12):23259671188112 93.	Original Article
112	H. Kanemaru, N. Honda, Y. Kubo, et al.	皮膚科	Case of cutaneous myoepithelioma managed with surgical resection without recurrence for 4 years	J Dermatol., 2019 Jan 23	Case report
113	Yamada- Kanazawa S ,Tasaki Y, Kajihara I,et al	皮膚科	The expression of EpCAM in extramammary Paget's disease.	Intractable Rare Dis Res. 2019 Feb; 8: 20-23	Others
114	Aoi J, Kajihara I, Masuguchi S, Fukushima S	皮膚科	Simple and effective modification of the axial frontonasal flap to prevent flap distortion.	J Dermatol. 2019 Jan;46(1):e46-e47.	Letter

115	Maeda-Otsuka S, Kajihara I, Tasaki Y, et al.	皮膚科	Hypoxia accelerates the progression of angiosarcoma through the regulation of angiosarcoma cells and tumor microenvironment.	J Dermatol Sci. 2019 Feb;93(2):123-132.	Original Article
116	Sawamura S, Jinnin M, Inoue K, et al.	皮膚科	Regulatory mechanisms of collagen expression by interleukin-22 signaling in scleroderma fibroblasts.	J Dermatol Sci. 2018 Apr;90(1):52-59.	Original Article
117	Sawamura S, Makino T, Johno T, et al.	皮膚科	Severe bacterial sepsis results in delayed diagnosis of tuberculous lymphadenitis in a rheumatoid arthritis patient treated with adalimumab.	Intractable Rare Dis Res. 2018 May;7(2):138-140.	Case report
118	Sawamura S, Niimori D, Ihn H.	皮膚科	A case of leg cellulitis caused by multidrug-resistant?Streptococcus pseudoporcinus.	Intractable Rare Dis Res. 2018 Nov;7(4):280-282.	Case report
119	Kawabata K, Shobayashi K, Iwao K, et al.	眼科	Efficacy and safety of Ex-PRESS® mini shunt surgery versus trabeculectomy for neovascular glaucoma: a retrospective comparative study	BMC Ophthalmology 2019 Mar; 19:75	Original Article

小計5

120	Futakuchi A, Inoue T, Wei FY, et al.	眼科	YAP/TAZ Are Essential for TGF- β 2-Mediated Conjunctival Fibrosis	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2018 Jun 1;59(7):3069-3078	Original Article
121	Nakashima KI, Iwao K, Inoue T, et al.	眼科	Stimulation of the adenosine A3 receptor, not the A1 or A2 receptors, promote neurite outgrowth of retinal ganglion cells.	Exp Eye Res. 2018 May;170:160-168	Original Article
122	Tsutsumi-Kuroda U, Inoue T, Futakuchi A, et al.	眼科	Decreased MCP-1/CCR2 axis-mediated chemotactic effect of conjunctival fibroblasts after transdifferentiation into myofibroblasts.	Exp Eye Res. 2018 May;170:76-80	Original Article
123	Orita Y, Gion Y, Tachibana T, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Laryngeal squamous cell papilloma is highly associated with human papillomavirus	Jpn J Clin Oncol 48(4):350-355 2018.4	Original Article
124	Kumai Y, Ise M, Miyamaru S, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Delayed transmastoid facial nerve decompression surgery in patients with Ramsay-Hunt syndrome presenting with neurophysiologically complete paralysis.	Acta Otolaryngol 138(9):859-863 2018.9	Original Article

小計5

125	Kumai Y, Miyamoto T, Matsubara K,et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	Determining the Efficacy of the Chin-Down Maneuver Following Esophagectomy With Fiberoptic Endoscopic Evaluation of Swallowing.	Arch Phys Med Rehabil pii: S0003- 9993(18)31442- 4.2018.11	Original Article
126	Kumai Y, Miyamoto T, Matsubara K,et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	Assessment of oropharyngeal swallowing dysfunction in myasthenia gravis patients presenting with difficulty in swallowing.	Auris Nasus Larynx pii: S0385-8146(18)30600- X.2018 .11	Original Article
127	Miyamaru S,Minoda R, Kodama N	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	Long-term changes in vocal function after supracricoid partial laryngectomy with cricohyoidoepiglottopexy for laryngeal cancer.	Head Neck 41(1):139- 145 2019 .1	Original Article
128	Takeda H ,Anna Dondzillo, Jessica A,et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	Challenges in Cell-Based Therapies for the Treatment of Hearing Loss	Trends in Neurosci 41(11):823-837 41(11):823-837 2018.11	Original Article
129	Yoneda M, Imamura R, Nitta H, et al.	齒科口腔外科	Enhancement of cancer invasion and growth via the C5a-C5a receptor system: Implications for cancer promotion by autoimmune diseases and association with cervical cancer invasion.	Oncol Lett.17(1)913-20, 2019 published online on Nov. 16, 2018	Original Article

130	Nakashima H, Yoshida R, Hirose A, et al.	歯科口腔外科	Circulating miRNA-1290 as a potential biomarker for response to chemoradiotherapy and prognosis of patients with advanced oral squamous cell carcinoma: A single-center retrospective study.	Tumour Biol. 2019 Mar; 41(3):1010428319826853.	Original Article
131	Yamamoto T, Sakamoto C, Tachiwana H, et al	歯科口腔外科	Endocrine therapy-resistant breast cancer model cells are inhibited by soybean glyceollin I through Eleanor non-coding RNA.	Sci Rep. 2018 Oct 12;8(1):15202.	Original Article
132	Yamamoto T, Saitoh N.	歯科口腔外科	Non-coding RNAs and chromatin domains.	Curr Opin Cell Biol. 2019 Jan 22; 58:26-33.	Review
133	Nagayama Y, Nakaura T, Oda S	画像診断・治療科	Dual-layer DECT for multiphasic hepatic CT with 50 percent iodine load: a matched-pair comparison with a 120 kVp protocol.	European Radiology. 2018 Apr;28(4):1719-1730	Original Article
134	Ikeda O, Inoue S, Tamura Y	画像診断・治療科	Shunt-preserving disconnection of the portal to systemic circulation in patients with hepatic encephalopathy.	Acta Radiol. 2018 Apr;28(4):1719-1730	Original Article

135	Namimoto T, Shimizu K, Nakagawa M	画像診断・治療科	Reducing artifacts of gadoxetate disodium-enhanced MRI with oxygen inhalation in patients with prior episode of arterial phase motion: intra-individual comparison.	Clin Imaging. 2018 Nov - Dec;52:11-15	Original Article
136	Nagayama Y, Tanoue S, Tsuji A	画像診断・治療科	Application of 80-kVp scan and raw data-based iterative reconstruction for reduced iodine load abdominal-pelvic CT in patients at risk of contrast-induced nephropathy referred for oncological assessment: effects on radiation dose, image quality and renal function.	Br J Radiol. 2018 May;91(1085):	Original Article
137	Tateishi M, Kitajima M, Hirai T	画像診断・治療科	Differentiating between Alzheimer Disease Patients and Controls with Phase-difference-enhanced Imaging at 3T: A Feasibility Study.	Magn Reson Med Sci. 2018 Oct 10;17(4):283-292	Original Article
138	Uetani H, Hirai T, Kitajima M	画像診断・治療科	Additive Value of 3T 3D CISS Imaging to Conventional MRI for Assessing the Abnormal Vessels of Spinal Dural Arteriovenous Fistulae.	Magn Reson Med Sci. 2018 Jul 10;17(3):218-222	Original Article
139	Nagayama Y, Nakaura T, Oda S	画像診断・治療科	Dual-layer detector CT of chest, abdomen, and pelvis with a one-third iodine dose: image quality, radiation dose, and optimal monoenergetic settings.	Clin Radiol. 2018 Dec;73(12):1058.e21-1058.e29	Original Article

140	Kidoh M, Utsunomiya D, Funama Y	画像診断・治療科	The effect of heart rate on coronary plaque measurements in 320-row coronary CT angiography.	Int J Cardiovasc Imaging. 2018 Dec;34(12):1977-1985	Original Article
141	Taguchi N, Oda S, Imuta M	画像診断・治療科	Dual-energy computed tomography colonography using dual-layer spectral detector computed tomography: Utility of virtual monochromatic imaging for electronic cleansing.	Eur J Radiol. 2018 Nov;108:7-12	Original Article
142	Taguchi N, Oda S, Imuta M	画像診断・治療科	Model-based Iterative Reconstruction in Low-radiation-dose Computed Tomography Colonography: Preoperative Assessment in Patients with Colorectal Cancer.	Acad Radiol. 2018 Apr;25(4):415-422	Original Article
143	Iyama A, Matsuyama T, Matsumoto E	画像診断・治療科	Effect of metal-containing topical agents on surface doses received during external irradiation.	J Radiat Res. 2018 Nov 1;59(6):794-799	Original Article
144	Iyama A, Utsunomiya D, Uetani H	画像診断・治療科	Emergency radiology after a massive earthquake: clinical perspective.	Jpn J Radiol. 2018 Nov;36(11):641-648	Original Article

145	Oda S, Kawano Y, Okuno Y	画像診断・治療科	Base-to-apex gradient pattern of cardiac impairment identified on myocardial T1 mapping in cardiac amyloidosis.	Radiol Case Rep. 2018 Oct 18;14(1):72-74	Case report
146	Nagayama Y, Oda S, Nakaura T	画像診断・治療科	Radiation Dose Reduction at Pediatric CT: Use of Low Tube Voltage and Iterative Reconstruction.	Radiographics. 2018 Sep-Oct;38(5):1421-1440	Original Article
147	Taguchi N, Oda S, Kobayashi T	画像診断・治療科	Advanced parametric imaging for evaluation of Crohn's disease using dual-energy computed tomography enterography.	Radiol Case Rep. 2018 Apr 24;13(3):709-712	Case report
148	Nagayama Y, Iyama A, Oda S	画像診断・治療科	Dual-layer dual-energy computed tomography for the assessment of hypovascular hepatic metastases: impact of closing k-edge on image quality and lesion detectability.	Eur Radiol. 2019 Jun;29(6):2837-2847.	Original Article
149	Nakagawa M, Nakaura T, Namimoto T	画像診断・治療科	A multiparametric MRI-based machine learning to distinguish between uterine sarcoma and benign leiomyoma: comparison with 18F-FDG PET/CT.	Clin Radiol. 2019 Feb;74(2):167.e1-167.e7	Original Article

小計5

150	Oda S, Takaoka H, Katahira K	画像診断・治療科	Low contrast material dose coronary computed tomographic angiography using a dual-layer spectral detector system in patients at risk for contrast-induced nephropathy.	Br J Radiol. 2019 Feb;92(1094):20180215. doi: 10.1259/bjr.20180215. Epub 2018 Nov 14.	Original Article
151	Saito T, Toya R, Tomitaka E.	放射線治療科	Predictors of Pain Palliation After Radiation Therapy for Painful Tumors:A Prospective Observational Study.	Int J Radiat Oncol Biol Phys 101(5):1061-1068,2018. Aug	Original Article
152	Saito T., Toya R., Yoshida N.	放射線治療科	Spleen Dose-Volume Parameters as a Predictor of Treatment-related Lymphopenia During Definitive Chemoradiotherapy for Esophageal Cancer.	In Vivo. Nov-Dec; 32(6): 1519-1525, 2018.	Original Article
153	Saito T., Toya R., Oya N.	放射線治療科	Pain Response Rates After Conventional Radiation Therapy for Bone Metastases in Prospective Nonrandomized Studies: A Systematic Review.	Pract Radiat Oncol 9: 81-88,2019. Mar	Original Article
154	Saito T., Toya R., Tomitaka E.	放射線治療科	Predictors of the Predominance of NonIndex Pain After Palliative Radiation Therapy for Painful Tumors.	Adv Radiat Oncol 4: 118-126,2019. Jan	Original Article

155	Toya R., Saito T., Kai Y.	放射線治療科	Impact of (99m)Tc-GSA SPECT Image-Guided Inverse Planning on Dose-Function Histogram Parameters for Stereotactic Body Radiation Therapy Planning for Patients With Hepatocellular Carcinoma: A Dosimetric Comparison Study.	Dose Response 17: 1559325819832149,201 9. Jan	Original Article
156	Sugawara H, Murata Y, Ikegame T, et al.	神経精神科	DNA methylation analyses of the candidate genes identified by a methylome-wide association study revealed common epigenetic alterations in schizophrenia and bipolar disorder.	Psychiatry and Clinical Neurosciences 2018 Apr	Original Article
157	Koyama A, Hashimoto M, Fukuhara R, et al.	神経精神科	Caregiver Burden in Semantic Dementia with Right- and Left-Sided Predominant Cerebral Atrophy and in Behavioral-Variant Frontotemporal Dementia.	Dement Geriatr Cogn Disord Extra 2018 Apr 6;8(1):128-137	Original Article
158	Sugawara H, Tsutsumi T, Inada K, et al.	神経精神科	Association between anxious distress in a major depressive episode and bipolarity.	Neuropsychiatric Disease and Treatment. 2019 Jan	Original Article
159	Makino K, Hirai T, Nakamura H, et al.	脳神経外科	Differentiating Between Primary Central Nervous System Lymphomas and Glioblastomas: Combined Use of Perfusion-Weighted and Diffusion-Weighted Magnetic Resonance Imaging	World Neurosurgery 112: 1-6, 2018 (2018/4)	Original Article

160	Hide T, Komohara Y, Miyasato Y, et al.	脳神経外科	Oligodendrocyte Progenitor Cells and Macrophages/Microglia Produce Glioma Stem Cell Niches at the Tumor Border	EBioMedicine 30: 94- 104, 2018 (2018/4)	Original Article
161	Hayashi K, Hashiguchi A, Moroki K, et al.	脳神経外科	Co-Existence of Persistent Primitive Trigeminal Artery and Another Primitive Carotid-basilar Anastomosis Associated with Segmental Agenesis of the Ipsilateral Internal Carotid Artery: A Case Report	Egyptian Journal of Neurosurgery 33(1), 2018 (2018/5/2)	Case report
162	Yano S, Shinojima N, Kitajima M, et al.	脳神経外科	Usefulness of Oblique Coronal Computed Tomography and Magnetic Resonance Imaging in the Endoscopic Endonasal Approach to Treat Skull Base Lesions	World Neurosurgery 113: 10-19, 2018 (2018/5)	Original Article
163	Makino K, Nakamura H, Shinojima N, et al.	脳神経外科	BCL2 Expression is Associated with a Poor Prognosis Independent of Cellular Origin in Primary Central Nervous System Diffuse Large B-Cell Lymphoma	Journal of Neuro- Oncology 140(1): 115- 121, 2018 (2018/10)	Original Article
164	Hamasaki T, Morioka M, Fujiwara K, et al.	脳神経外科	Is Hemifacial Spasm Affected by Changes in the Heart Rate? A Study Using Heart Rate Variability Analysis	Clinical Neurophysiology 129(10): 2205-2214, 2018 (2018/10)	Original Article

165	Inoue H, Shinojima N, Ueda R, et al.	脳神経外科	A Rare Case of Thyrotropin-Secreting Pituitary Adenoma Coexisting with Papillary Thyroid Carcinoma Presenting with Visual Disturbance without Hyperthyroidism	World Neurosurgery 119: 394-399, 2018 (2018/11)	Case report
166	Hayashi K, Ohmori Y, Kaku Y, et al.	脳神経外科	Non-Sinus-Type Dural Arteriovenous Fistula Cured by Transarterial Embolization: Two Case Reports	Journal of Neuroendovascular Therapy 12(1): 542-545, 2018 (2018/11/20)	Case report
167	Takemoto Y, Kawano T, Ohmori Y, et al.	脳神経外科	Dural arteriovenous fistula associated with intratumor hemorrhage.	Journal of Clinical Neuroscience 59: 352- 355, 2019 (2019 Jan)	Case report
168	Shiotsu H, Okada K, Shibuta T, et al.	中央検査部	The influence of pre- analytical factors on the analysis of circulating microRNA.	Microna. 2018 Dec; 7(3): 195-203.	Original Article
169	Sasada K, Yamamoto N, Masuda H, et al.	中央検査部	Inter-observer variance and the need for standardization in the morphological classification of myelodysplastic syndrome.	Leukemia Research. 2018 Jun; 69: 54-59	Original Article

小計5

170	Usuku H, Yamamoto E, Yoshimura H, et al.	中央検査部	Utility of postural change in differentiating sludge from thrombus in the left atrial appendage: A case report.	Echocardiography. 2018 Apr;35(4):573-574	Case report
171	Daisuke Sakabe,Yos hinori Funama,Kat suyuki Taguchi,et al.	中央放射線部	Image quality characteristics for virtual monoenergetic images using dual-layer spectral detector CT:Comparison with conventional tube- voltage images.	Physics Medica,49,5- 10,2018 May	Original Article
172	Yuji Nakaguchi,T akeshi Oono,Masat o Maruyama,e t al.	中央放射線部	Commissioning and validation of fluence- based 3D VMAT dose reconstruction system using new transmission detector.	Radiol Phys Technol,Jun;11(2):165- 173,2018	Original Article
173	Yasuhiro Doi,Yoshino bu Shimohigash i,Yohei Yotsuji,et al.	中央放射線部	Target volume and motion position evaluation of four- dimensional cone-beam CT:Comparison with 4D- CT using dynamic thorax phantom.	Biomedical Physics & Engineering Express, Volume5, Number3, 2019 Mar, 035016.	Original Article
174	Yuji Nakaguchi , Yuya Nakamura,Y ohei Yotsuji.et al.	中央放射線部	Validation of secondary dose calculation system with manufacturer- provided reference beam data using heterogeneous phantoms.	Radiol Phys Technol,Jun;12(1):126- 135, 2019 Mar	Original Article

175	Kaneko T, Fujita M, Yamashita S, et al	救急・総合診療部	Slow rewarming improved the neurological outcomes of prolonged mild therapeutic hypothermia in patients with severe traumatic brain injury and an evacuated hematoma.	Sci Rep. 2018 Aug 2; 8(1) :11630.	Original Article
-----	---	----------	---	-----------------------------------	------------------

小計1
計175

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Kawaguchi T.	血液内科・膠原病内科	発作性夜間ヘモグロビン尿症	Rinsho Ketsueki 59(6): 703-710, 2018.	Review
2	Okamura K, Inoue H, Oda A, et al.	腎臓内科	当院で腹膜透析を導入した糖尿病患者の特徴について.	腎と透析(別冊) 腹膜透析2018, 東京医学社, pp150-151, 2018.	Original Article
3	Miura R, Kajiwara K, Yagi Y, et al.	腎臓内科	メトホルミン内服による乳酸アシドーシスに対し緊急透析にて救命しえた1例.	日本透析医学会雑誌 51(6): 395-399, 2018.	Case report
4	Ueda M, Misumi Y, Masuda T	脳神経内科	トランスサイレチンフラグメントのアミロイド形成および細胞毒性の解析	末梢神経 29: 42-49, 2018	Others
5	Masuda T, Ando Y	脳神経内科	家族性アミロイドポリニューロパチーと自律神経障害	自律神経 55, 81-84, 2018	Others
6	Masuda T, Ueda M, Ando Y	脳神経内科	神経アミロイドーシスのすべて- 2017年診療ガイドライン	神経治療学, 2019,	Others
7	Mizutani H, Inatomi Y, Shingu T	脳神経内科	アフリベルセプト硝子体内初回注射直後に発症した脳塞栓症の1例	臨床神経 58; 314-319, 2018	Case report
8	Nakane S, Ando Y	分子神経治療学寄附講座	抗自律神経節アセチルコリン受容体抗体と自己免疫性自律神経節障害	BRAIN and NERVE: 神経研究の進歩. 2018;70:383-393.	Others
9	Nakane S, Higuchi O, Takamatsu K	分子神経治療学寄附講座	抗LRP4抗体陽性重症筋無力症	末梢神経生理学. 2018;46:95-	Others
10	Mukaino A, Nakane S, Ando Y	分子神経治療学寄附講座	抗自律神経節アセチルコリン受容体抗体による自律神経障害	Shinkeinaika 2018; 88: 253- 259	Original Article
11	Mukaino A, Nakane S, Ando Y	分子神経治療学寄附講座	抗自律神経節アセチルコリン受容体抗体による神経機能障害	Clinical Immunology & Allergy 2018; 70: 585-290	Original Article
12	Yamashita T, Ando Y	脳神経内科	遺伝性ATTR型脳アミロイド血管症/家族性ATTR型眼軟膜アミロイドーシスの臨床像	神経内科. 88(3)305-310,2018.	Original Article

13	Yamashita T, Ando Y	脳神経内科	アミロイドーシスの最近の知見	皮膚病診療. 40(11)1086-1092,2018;	Original Article
14	Yamashita T, Ueda M, Ando Y	脳神経内科	手根管症候群に潜む疾患の鑑別と治療(TTR-FAP:トランスサイレチン型家族性アミロイドポリニューロパチー)	Peripheral Nerve. 29(2):224-231,2018.	Original Article
15	Inoue Y, Ueda M	脳神経内科	脳アミロイドアンギオパチーの新規病態関連分子SRPX1	医学のあゆみ, 266: 295-296, 2018	Original Article
16	Okabe H, Yusa T, Hayashi H, et al.	消化器外科	十二指腸球後部潰瘍脾頭部穿破による脾周囲膿瘍の1例	日本臨床外科学会誌 79巻4号770-773頁 2018年10月	Case report
17	Iwatsuki M, Yoshida N, Baba H.	消化器外科	脾門部リンパ節郭清の今後—JCOG0110を踏まえて	臨床外科 73巻10号1209-1214頁 2018年10月	Others
18	Okabe H, Yamashita Y, Hayashi H, et al.	消化器外科	脾全摘術: 一期的手術と二期的手術	胆と脾 40巻1号57-60頁 2019年1月	Others
19	Hiyoshi Y, Miyamoto Y, Eto K, et al.	消化器外科	大腸癌術後補助化学療法(特集 大腸癌化学療法)	消化器・肝臓内科 5巻1号49-54頁 2019年1月	Others
20	Matsumoto T, Yoshida N, Baba Y, et al.	消化器外科	血小板低値が食道癌術後の短期および長期成績に与える影響	日本気管食道科学会会報 69巻6号327-334頁 2018年12月	Original Article
21	Ryo Maehara, Daisuke Imagawa, Yoji Murakami	泌尿器科	成長ホルモン産生下垂体腫瘍による先端巨大症を合併したアンドロゲン産生副腎腺腫の1例	西日泌尿. 2018;80(12):663-668.	Case report
22	Tashiro H, Miyamoto S, Sugita K	産科婦人科	本邦における卵巣奇形腫を伴う抗NMDA受容体脳炎の現状	日本婦人科腫瘍学会雑誌; 2018; 36: 168-176	Original Article

23	Honda R, Katabuchi H	産科婦人科	稀少部位子宮内膜症の ガイドライン作成に向けて 腸管子宮内膜症	日本エンドメトリオーシス 学会誌 2018; 39: 115-118	Original Article
24	Tsuboki J, Honda R, Itoh F	産科婦人科	当施設で治療を行った腸 管子宮内膜症12例の検 討	日本エンドメトリオーシス 学会誌 2018; 39: 181-184	Original Article
25	Kodera C, Takaishi K, Hirashima K	産科婦人科	塩酸リドリンの長期経静 脈的投与後に胎児心房 粗動を認めた1例	日本新生児・周産期学会 雑誌 2018; 54: 155-158	Case report
26	Kusunoki M, Yamaguchi M, Motooka C	産科婦人科	胎盤・臍帯病理組織学的 検査で胎児一過性骨髄 異常増殖症と診断した子 宮内胎児死亡の1例	日本新生児・周産期学会 雑誌 2018; 54: 933-937	Case report
27	Kodera C, Ohba T, Takaishi K	産科婦人科	同胞発症した胎児骨系統 疾患の1例から学ぶ遺伝 カウンセリングの重要性	熊本産科婦人科学会雑誌 2018; 62: 25-28	Case report
28	Kamio M, Yamaguchi M, Sasaki R	産科婦人科	外陰部出血を契機に診断 した9歳女児の尿道カル ンクルの1例	熊本産科婦人科学会雑誌 2018; 62: 29-32	Case report
29	Okamura Y, Honda R, Yoshimura T	産科婦人科	平成28年熊本地震が特 定不妊治療に与えた影響 についての検討	熊本産科婦人科学会雑誌 2018; 62: 39-42	Original Article
30	Nagayama Y	画像診断・治療科	「若年者頭部CTにおける 被ばく低減への取り組 み: 正当化と最適化の意 義と実践」	臨床放射線 2018 (15) No.6	Original Article
31	Seiji Yuki, Noboru Fujise	神経精神科	昭和6年九州医学界にお ける森田正馬による講演 「神経質(即所謂神経衰 弱)に就いて」における神 経質概念についての報告	森田療法雑誌 第29巻2 号:155-165	Review
32	Hiroyuki Sasaki, Takeshi Matsumoto , Tadashi Jono, et al.	神経精神科	児童・思春期のうつ病 性障害の症状軽減時期 把握のための研究	精神科治療学, 33(6), 761-767, 2018	Original Article
33	Mamoru Hashimoto	神経精神科	軽度認知障害と森田療法	日本森田療法学会雑誌29 (1):35-41,2018	Review

34	Takemoto Y, Kawano T, Omori Y, et al	脳神経外科	遠位端の追加切開を要したGEA症例の検討	脳卒中の外科 46(6): 422-428, 2018 (2018)	Original Article
35	Yamamoto T, Hasegawa Y, Nakamura H, et al	脳神経外科	片頭痛既往の妊婦に悪性脳腫瘍が合併した一例	日本頭痛学会誌 45(1): 191-194, 2018 (2018)	Case report
36	Takemoto Y, Hashiguchi A, Hasegawa Y, et al	脳神経外科	単一施設の最近10年間における症候性脳血管攣縮の発生率とその予防薬についての後方視的解析	脳血管攣縮 34: 10-14, 2018 (2018)	Original Article
37	Masuda H, Sasada K, Fukuyoshi Y, et al.	中央検査部	自動血球分析装置による末梢血幹細胞動員不良予測の試み	日本輸血細胞治療学会誌. 2018 ; 64(3): 510-515	Original Article
38	Daisuke Sakabe, Yoshinori Funama, Takeshi	中央放射線部	Dual layer spectral detector CTを用いたヨード物質における仮想単色X線画像の解像特性	Japanese Journal of CT technology Vol.6, No.2, (2018)	Original Article
39	Kaneko T, Ya	救急・総合診療部	熊本県消防防災ヘリの天候・活動時間による現場救急補完活動の検討	日本航空医療学会雑誌 2019; 19: 21-24.	Original Article

小計6
計39件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 研究者、研究責任者、研究部長及び病院長の責務 人を対象とした医学系研究倫理審査申請の受付から審査までの業務手順 研究開始から終了に係る業務手順 研究の倫理、研究実施に必要な知識および技術に関する教育・研修	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 10 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 熊本大学大学院生命科学研究部等臨床研究利益相反審査委員会の設置 臨床研究にかかる利益相反申告書の提出 委員会による審査結果、指導・勧告、異議申し立て、情報開示	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 660 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 7 回
-----------------------	-------

・研修の主な内容

臨床研究の計画について

臨床研究法について

臨床研究計画立案の要点

非臨床試験とGLP-アカデミアにおける開発を事例として-

医薬品開発のケーススタディ-プロダクトマネージャーの役割-

利益相反管理の考え方-臨床研究法で求められる対応-

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科にて実施されるプログラムの主な内容は、以下のとおり。

- ・英語論文の抄読会
- ・新患カンファレンス
- ・手術カンファレンス
- ・病理カンファレンス
- ・画像診断カンファレンス
- ・リサーチカンファレンス
- ・症例検討会
- ・実習トレーニング
- ・スキルアップセミナー
- ・各種勉強会
- ・教員レクチャー など

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数 265.16 人

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
坂上 拓郎	呼吸器内科	教授	21年	
佐々木 裕	消化器内科	教授	39年	
松岡 雅雄	血液内科	教授	36年	
松岡 雅雄	膠原病内科	教授	36年	
向山 政志	腎臓内科	教授	35年	
荒木 栄一	糖尿病・代謝・ 内分泌内科	教授	35年	
辻田 賢一	循環器内科	教授	20年	
安東 由喜雄	脳神経内科	教授	35年	
福井 寿啓	心臓血管外科	教授	24年	
鈴木 実	呼吸器外科	教授	29年	
馬場 秀夫	消化器外科	教授	34年	
岩瀬 弘敬	乳腺・内分泌外 科	教授	39年	
日比 泰造	小児外科	教授	20年	
日比 泰造	移植外科	教授	20年	
神波 大己	泌尿器科	教授	26年	
片渕 秀隆	婦人科	教授	36年	
中村 公俊	小児科	教授	28年	
片渕 秀隆	産科	教授	36年	
中村 英一	整形外科	講師	30年	
尹 浩信	皮膚科	教授	28年	

尹 浩信	形成・再建科	教授	28年	
井上 俊洋	眼科	教授	21年	
折田 頼尚	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	22年	
中山 秀樹	歯科口腔外科	教授	22年	
山下 康行	画像診断・治療科	教授	37年	
大屋 夏生	放射線治療科	教授	31年	
竹林 実	神経精神科	教授	26年	
武笠 晃丈	脳神経外科	教授	24年	
山本 達郎	麻酔科	教授	36年	
松井 啓隆	中央検査部	教授	23年	
笠岡 俊志	救急・総合診療部	教授	32年	
三上 芳喜	病理部	教授	28年	
松岡 雅雄	感染免疫診療部	教授	36年	
中村 英一	リハビリテーション部		30年	
松井 邦彦	地域医療・総合診療実践学寄附講座（地域医療支援センター）	特任教授（センター長）	29年	総合診療

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

【薬剤部】

職員研修を目的として、定期的に①「薬剤管理指導検討会」及び②「新薬説明会」、また、不定期に③「くすりの勉強会」を開催している。

【看護部】

教育理念・教育方針のもと、毎年院内教育計画を策定し、実施している。

【中央検査部】

特定機能病院として、高度な臨床検査体制を構築するため、別紙の研修をスタッフ全員に対して行っており、臨床検査の精度保証の向上に努めている。

【ME機器センター】

人工呼吸器、除細動器に関する研修を実施することは、医療事故防止の面で有効と考え毎年実施している。参加者は看護師だけでなく、呼吸リハの関係で理学療法士や作業療法士も参加した。

【中央放射線部】

特定機能病院としての高度な救急医療や高精度な放射線治療に対応できるよう、研修を実施している。

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

【薬剤部】

別紙（1）のとおり

【看護部】

別紙（2）のとおり

【中央検査部】

別紙（3）のとおり

【ME機器センター】

別紙（4）のとおり

【中央放射線部】

別紙（5）のとおり

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容…「個人情報保護」、「院内感染対策」、「医療安全管理」及び「適正な勤務時間管理」について、医療業務に携わる上で、各職員が必ず習得しておくべき基本的かつ重要な事項について周知徹底させる

- ・研修の期間・実施回数…平成30年4月2日(月) 外

※採用者があり次第、随時実施

- ・研修の参加人数…379名(内訳：4月1日採用者304名、中途採用者67名、復職者8

名)

※H30年度実績

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

研 修 名	期 間	実施回数	参加人員	備 考
①薬剤管理指導検討会	毎月1回1時間程度	12回	平均 30.7名	
②新薬説明会	毎月1回1時間程度	9回	平均 26.8名	
③くすりの勉強会	必要に応じ開催(1~2時間)	12回	平均 23.4名	

【薬剤部】

平成30年度看護部院内教育一覧

別紙(2)

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	時間数
新規採用者 オリエンテーション	平成30年度 新規採用者 平成29年度 中途採用者	病棟の組織を知り看護部の一員として組織に慣れ、メンバースタッフが活躍できる。	病院・看護部の組織と機能を学び、看護師としての心構えを習得できる。	講義	4/2(月)～4/3(火) 8:30～17:15 4/4(水) 8:30～9:50 13:00～16:05 4/6(金) 8:30～9:00 13:00～16:05	病院長、看護部長、事務部長、各診療・医療技術部門長、事務職員	医学総合研究棟3階講習室、東病棟12階多目的ホール	48人	19:50
新人看護師のためのメンタルヘルス	平成30年度 新規採用看護師 (任期付看護師除く)	メンタルヘルスとは何かを知り、自身の心の健康状態に気づきストレスに対応できる	1)職場における心の健康づくり 2)職場におけるメンタルヘルス対策	講義 GW	4/4(水) 10:00～12:00	熊本大学大学院生命科学研究部 精神看護学教授 宇佐美しおり先生	東病棟12階多目的ホール	48人	2:00
社会人としての基本姿勢とコミュニケーションI	平成30年度 新規採用看護師 (任期付看護師除く)	1)社会人として自覚と責任ある行動が取れる 2)社会人として「報告・連絡・相談」を実施できる 3)組織における役割、心構えを理解する	組織における役割・心構え・コミュニケーションの取り方	講義 GW ロールプレイ	4/5(木) 8:30～9:40	教育委員会 本田万里子看護師長	東病棟12階多目的ホール	48人	1:10
看護倫理	平成30年度 新規採用看護師 (任期付看護師除く)	看護者の倫理とは何かを理解し、日常の看護ケアの中で看護師としてどのように行動すべきかを学ぶ	看護者の倫理綱領、看護ケアにおける倫理的問題実践事例の検討	講義 GW	4/5(木) 9:50～11:50	がん看護専門看護師 岡本 泰子看護師長	東病棟12階多目的ホール	48人	2:00
現場における医療安全	平成30年度 新規採用看護師 (任期付看護師除く)	医療安全管理に関する基本的な考え方を理解する	1)組織における医療安全 2)ダブルチェックの方法	講義 演習	4/5(木) 12:50～14:20	田口由美子 ゼネラルリスクマネージャー	東病棟12階多目的ホール	49人	1:30

基礎研修

基礎研修

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	時間数
感染対策基礎研修	平成30年度 新規採用看護師 および平成29年度 中途採用者	感染対策の基本を理解し、感染予 防のための手指衛生と個人防護 具の着脱の実践ができる	1) 院内感染対策の基本 2) 標準予防策と感染経路別予防策 3) 針刺し・血液体液曝露防止対策 4) 医療廃棄物の分別方法・取り扱い 方法 5) 演習(個人防護具の着脱方法・手 指消毒)	講義 演習	4/6(金) 9:00~12:00	藤本陽子 吉田真由美 感染管理認定看護師 感染リンクナース23人	東病棟12階 多目的ホー ル	49人	3:00
新規採用者PC研修	平成30年度 新規採用者 (部署の必要に応じて 任期付き、育児休業 復帰者も可)	KAIJU2の基本操作を学び、日常 業務に活用できる	・KAIJU2の基本操作 ・診療録参照方法のデモンストレー ション ・操作演習 ・カイボウズの掲示板、共有フォルダ Bの閲覧方法とメールの送信受信 方法	演習	4/9(月) 部署の都合のい い時間帯で2時 間	看護情報リンクナース	各部署	47人	2:00
新規採用看護師基礎研 修(注射与薬・輸液ポン プ)	平成30年度 新規採用者	1) 注射与薬のプロセスを理解し、 実践に活かす 2) 輸液ポンプ・シリンジポンプの原 理と使用方法を理解し、実践に活 かす	注射与薬プロセスおよび輸液ポン プ・シリンジポンプ使用方法	講義 演習 (演習に 分かれて 実施)	4/14(土) 8:00~16:45	安全リンクナース・実地指導者・教 育支援室・看護部安全対策委員 会	東病棟12階 多目的ホー ル、各部署 演習室	46人	7:45
心電図モニター 基礎研修	平成30年度 新規採 用看護師・助産師	心電図モニターの基本を学び、理 解できる	1) セントラルモニターとベットサイド モニター、送信機について 2) 心電図モニター装着時、装着中 の注意事項 3) 心電図モニターのアラーム対応、 インシデント事例 4) 心電図モニターとナーコースロールの 連動について 5) その他	講義	4/20(金) 10:00~11:30	医療技術部ME機器技術部門 臨床工学技士	東病棟12階 多目的ホー ル	47人	1:30

基礎研修

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	時間数
看護記録基礎研修 (STEP1)	平成30年度 新規採用者	看護記録の意義を理解し、観察した患者状態を記録できる	・看護記録の意義 ・バイタルサイン測定後の記録	講義 演習 GW	4/20(金) 14:00～16:00	渡邊希子看護師長 看護情報委員会	東病棟12階 多目的ホール	41人	2:00
	平成30年度 採用看護師 (任期付看護師除く)	糖尿病に対する知識・技術を身につけ、安全な看護が提供できる	・糖尿病とは ・インスリン療法の基礎知識・血糖降下剤について ・実技演習 ・糖尿病看護とリスクマネジメント	講義 演習	5/30(水) 13:00～16:45	熊本美枝糖尿病看護認定看護師 日本糖尿病療養指導士(CDE) 12名	東病棟12階 多目的ホール	46人	3:45
IV基礎研修	平成30年度 新規採用看護師 (任期付看護師除く)	①安全な静脈注射を実施するための知識、基本的な技術・態度を習得する ②本院の静脈注射実施基準を理解し、倫理的側面を考慮 ③静脈注射に必要な薬理作用・解剖生理を理解し実践にいかすことができる ④静脈注射に必要な安全・感染管理の知識を習得し、実践に活用できる ⑤緊急時の報告・連絡ができる	「静脈注射に必要な解剖・生理」 「静脈注射実施基準と法的責任・教育計画」 「静脈注射に必要な緊急時の看護」 「静脈注射に必要な感染管理」 「静脈注射に必要な安全管理」 「看護師に必要な薬理作用の基礎知識」	講義	6/5(火) 8:30～16:00	熊本大学大学院生命科学研究部 教授 大林光念先生 薬劑部部長 斎藤秀之先生 牛島輝美看護師長 田口由美子看護師長 村上志穂副看護師長 吉田真由美看護師	管理棟3階 第一会議室	46人	7:30
PNS研修	平成30年度 新規採用看護師	1) PNS場面におけるロールプレイを通して、PNSの意義、マインドを理解できる 2) 自己の行動を振り返り、看護実践に活用できる	・PNSの気付き ・事例を通して気になった場面を振り返る ・自己の行動を考える	講義・G W・ロール プレイ	6/29(金) 13:00～14:30	副看護師長PNSグループ	東病棟12階 多目的ホール	46人	1:30
新人ピアカウンセリング 研修	平成30年度 新規採用者	ピアカウンセリングによりリアリティ ショックを緩和する	・3ヶ月間の振り返り ・気持ちの共有	GW	6/29(金) 15:40～16:45	教育委員	東病棟12階 多目的ホール	43人	1:05
基礎研修									

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	時間数
基礎研修 看護記録基礎研修「情報収集の仕方と整理(STEP2)」	平成30年度 新卒新規採用看護師	看護過程の概念を学び、NANDA-Iの13領域にそった情報収集と整理ができる	・看護過程とは ・NANDA-Iの13領域にそった情報収集と整理 ・ダクトラップアグ(ペーパーベース)イベント事例を用いた情報の整理)	講義・ GW発表	7/13(金) 13:00~16:45	谷川看護師長	東病棟12階 多目的ホール	41人	3:45
基礎研修 ファイジカルアセスメント 基礎研修/ BLS(Basic Life Support) 研修	平成30年度 新規採用看護師	1)ファイジカルアセスメント技術を修得し正常と異常のアセスメントができる 2)呼吸・循環・意識・腹部のファイジカルアセスメントに必要な知識を学ぶ ・BLS(Basic Life Support)研修 1)一次救命処置の概要を理解し、技術を修得する 2)ABDを正しく理解し、使用できる	・ファイジカルアセスメント基礎研修 1)問診・視診・触診・聴診に必要な講義 2)ファイジカルアセスメント技術の演習 3)シミュレーションを活用した正常と異常の判断 ・BLS(Basic Life Support)研修	講義 演習 GW	8/28(火)・ 8/29(水) (※いずれか 1日に参加) 8:00~16:45	田中貴子 集中ケア認定看護師 上田郁美 脳卒中リハビリテーション看護師 村上志穂 救急看護認定看護師	中央診療棟 7階 総合臨床研修センターカンパ レンス室・演習室・シミュレーション室	45人	15:30
基礎研修 新人研修 「看護の中の気づき」	平成30年度 新規採用看護師 および 平成29年度 中途採用者	事例の振り返りやグループディスカッションを通して、自己の課題を明確にし、看護実践に活かせる	看護の中の気づき ・事例を通して看護の振り返りをする ・自己の課題を見いだす	グループワークと必要時にロールプレイ	12/1(土) 8:00~13:00	看護師長・副看護師長	演習室1~9、シミュレーション室、中央診療棟カナルンルーム、第1~3会議室、東12患者多目的室、セナ一室	45人	5:00
基礎研修 トランスファア研修	平成30年度 新規採用看護師	根拠に基づいたトランスファア技術で患者の移乗を安全にできる	1)トランスファア技術の理解 2)トランスファア技術の習得	講義 演習	4/24(火) 4/26(木) 17:00~18:00	熊本大学医学部附属病院 理学療法士	中央診療棟 2階 リハビリテーション部	4/24: 23名、 4/26: 23名	2:00
基礎研修 看護OSCE	平成30年度 新規採用者 平成29年度 中途採用者	基本的臨床実践能力を客観的に評価し、自己の課題を明確にする	設定した模擬患者で課題を実施し、評価をうける	OSCE	H31年1/22(火) ~1/25日(金) 9:00~15:50	教育委員会が評価表に基づいて行う	中央診療棟 7階 臨床研修センター	1/22 18名 1/23 12名 1/24 9名 1/25 4名	16:30

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	時間数
ラダーⅠ がん看護 (基礎編)	がん看護経験1年以上 以上	がん看護の基礎的知識を理解し、 実践に活かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> 緩和ケア がん性疼痛看護 がん化学療法看護 がん放射線療法看護 がん患者における精神的ケア 	講義 GW	7/3(金) 8:30~16:45	がん看護専門看護師 石坂 暁子 緩和ケア認定看護師 高野 いづみ がん性疼痛看護認定看護師 前田 望花 がん放射線療法看護認定看護師 太田 由利香 がん化学療法看護認定看護師 森 奈緒美	第一会議室	42人	6:30
看護診断	レベルⅠ以上	NANDA分類Ⅱ13領域、NANDA 看護診断、NIC・NOCの概要を学 び、実際に展開できる	NANDA看護診断分類Ⅱ13領域各 項目の意味とアセスメント NANDA・NOC・NIC/N/Nケージの実 際	講義 GW	11/16(金) 9:00~16:30	熊本大学大学院生命科学研究所 精神看護学教授 宇佐美しおり先生	東病棟12階 多目的ホー ル	51人	7:00
看護管理	クリニカルラダー レベルⅡ-Ⅰ	1)看護管理を理解し、部署の運 営に参画できる 2)チームメンバーとして主体的に 行動できる	1)看護管理とは 2)キャリアとは	講義 GW	9/26(火) 13:30~16:30	今村かおる副看護部長	東病棟12階 多目的ホー ル	28人	3:00
急変時の対応(ラダーⅠ 対象)	レベルⅠ	1)急変対応に必要な知識とスキ ルを修得する 2)急変対応時のコミュニケーション、チ ームワークの必要性につい て理解し行動できる。 3)緊急性と優先度の判断が理解 できる	1)急変対応に必要な知識 2)スキルトレーニング 3)コミュニケーションとチームワーク 概論 4)シナリオトレーニング	講義 演習 GW	H31/1/19(土) 午前:8:00~ 12:00 午後:13:00~ 17:00	救急総合診療部 上岡 圭司先生 救急認定看護師 村上 志穂副看護部長 コメディカル心肺蘇生トレーニング 部会・教育委員会	中央診療棟 7階臨床研 修センター 他	45人	8:00

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	時間数
がん看護(実践編)	ラダーII-1以上	がんやがんの治療に伴う症状へのケアについて理解し実践に活かすことができる	①治療に伴う有害事象への看護ケア(がん化学療法・放射線療法) ②がんに伴う苦痛(症状)への看護ケア(がん性疼痛) ③がん看護における症状マネジメント(IASM) ④事例検討(グループワーク)	講義 GW 事例検討	9/14(金) 9:00~16:45	がん看護専門看護師 安達美樹 岡本康子 がん性疼痛看護認定看護師 坂口まみ がん放射線療法看護認定看護師 太田由香里	東病棟12階 多目的ホール	18人	6:45
プリセプター 研修:3ヶ月	平成30年度 実地指導者 (プリセプター) 教育担当者	プリセプターの悩みを共有し、新人看護師に対する指導・教育技法を学び、新人看護師への支援ができる	・新人看護職員研修制度の進捗状況報告と問題点の明確化 ・ロールプレイ ・リアレンジ ・カウゼリング ・アサーティブ訓練 ・コーチング ・面接技法 ・新人の成長度合いの評価と今後の指導のあり方	講義 GW	7/5(木) 14:00~16:45	熊本大学大学院生命科学研究所 精神看護学教授 宇佐美しおり先生	東病棟12階 多目的ホール	36人	2:45
プリセプター研修:6ヶ月	平成30年度 プリセプター	1) 新人の半年間の成長度合いを評価し、今後の指導内容や方法を検討する 2) プリセプターの体験を通して自己の関わり方や自己成長を再確認する	1) 新人の成長度合いの評価と今後の指導のあり方 2) 自己の振り返りと指導者としての成長過程の確認	講義 GW	9/6(木) 14:00~16:45	熊本大学大学院生命科学研究所 精神看護学教授 宇佐美しおり先生	東病棟12階 多目的ホール	36人	2:45
プリセプターシナジー研修	平成31年度 実地指導者(プリセプター) (クニカールラダーレベルII-1以上) 新副看護師長 副看護師長の希望者	熊本病院におけるプリセプターシナジーについて理解し、実践する	1) プリセプターシナジーの概念と熊大式プリセプターシナジーの理解 2) 効果的な指導・教育技法 3) 新人看護師の特性・面接技法	講義 GW	H31/3/18(月) 13:30~17:00	熊本大学大学院生命科学研究所 精神看護学教授 宇佐美しおり先生	東病棟12階 多目的ホール	47人	3:45
ラダーレベルII-1									
ラダーレベルII-1									

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	時間数
事例研究発表会	クリニカルラダーレベルII-1看護師	1) 事例研究の意義を理解する 2) 実践と理論の統合ができる 3) 研究的態度を養い看護の探求心を高める	事例研究発表および事例討議	発表とグループディスカッション	11/10(土) 8:00~13:00	座長及びファシリテーター 看護師長	管理棟3階 第1会議室 中央診療棟 7階カンファレンスルーム 東病棟12階 多目的ホール 東病棟12階 セミナー室2	42人	5:00
療養支援	クリニカルラダーレベルII-1以上	1) 医療提供体制の現状を知る 2) 患者・家族が安心して退院後の療養環境に移行するための支援を学ぶ	1) 療養支援について・急性期病院における看護師の役割 2) 診療報酬について 3) 在宅療養継続のための社会資源活用 4) 医療ソーシャルワーカー、ケアマネジャーの役割の理解 5) 医療機関と地域との連携について理解する～訪問看護師の立場から～	講義 GW 発表	10/23(火) 10:15~17:15	訪問看護ステーション まいん管理者 森田純子先生 地域医療連携センター 井原国代看護師長 高橋京香副看護師長 原田薫MSW	山崎記念館 1階 研修ホール	28人	7:00
「看護研究研修」 コース編	ラダーレベルII-2以上の看護職員で 希望者	1) 研究に関心を持ち実践と結びつけて考えることができる 2) 臨床の問いを明確にして文献検索を行い、研究計画書が作成できる 3) 看護研究の一連の流れを展開し、院内外で発表することを目指す	・研究テーマの検討 ・文献検索の実践 ・研究計画書の作成 ・研究論文の作成	検討	1回目:6/21(木) 2回目:10/18(木) 14:00~15:30	熊本大学大学院生命科学研究所 精神看護学教授 宇佐美しおり先生	東病棟12階 患者多目的室	1回目7人、 2回目4人	3:00
看護研究基礎研修(5回 コース)	ラダーレベルII-2以上	研究の基礎を学び、研究課題を明確にして、研究に取り組むことができる	・研究概論 ・文献クリティーク ・文献検索 ・文献レビュー ・文献検索の実際	講義演習	1回目:6/14(木) 2回目:7/27(金) 3回目:10/2(火) 4回目:12/4(火) 5回目:H31/2/5(火) 13:00~16:45	院内専門看護師	管理棟3階 第1会議室	1~4回目: 15人、 5回目: 14人	18:45

ラダーレベルII-1

ラダーレベルII-2

ラダーレベルII-2

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	時間数
フイジカルアセスメント指導者研修(2回コース)	クリニカルラダーII-2以上(2回とも受講可能な方)約30名(研修受講前0-ラーニングで事例検討自己学習した者)	1)フイジカルアセスメントに必要なイグザミネーション技術の向上を確実に行う 2)指導の根拠を学ぶ 2)フイジカルアセスメントと事例統合を理解し、フイジカルアセスメントの質を高める	1回目 ・意識・呼吸・循環・腹部の診察技法を学ぶ ・事例を使用して得られたデータから正常と異常、緊急性を判断する 2回目 ・敗血症の病態理解 ・フイジカルイグザミネーションと事例統合	講義 演習 GW	1回目:6/27(水) 2回目:7/31(火) 12:30~16:45	田中貴子集中ケア認定看護師 上田郁美脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 村上志穂救急看護認定看護師	中央診療棟 7階カン ファレンス ルーム・演 習室	28人	12:30
災害看護	クリニカルラダーレベルII-2以上	・災害看護の基礎と特殊性について理解する ・災害発生時の対応(役割)について理解する ・施設見学を通して施設内の災害対応を理解する	・災害医療概論 ・災害看護に必要な基礎的事項 ・災害発生時の対応(院内災害対策マニュアルの確認) ・広域災害での医療支援活動 ・N/Aー ・施設見学	講義 施設見学	10/30(火) 13:00~16:45	救急・総合診療部教授 空回 俊彦医師 救急看護認定看護師 村上 志穂副看護師長 (エリア別カード説明:中央材料部 松田貴恵子看護師長)	管理棟3階 第一会議室	26人	3:45
メンタルケアトレーニング研修	クリニカルラダーレベルII-2 30人	メンタルケアトレーニングを通してレジリエンスを高めることができる	1)ストレスやメンタルケアに関する基本的な知識 2)メンタルケアトレーニング	講義 GW	11/29(木) 13:30~16:30	熊本大学大学院生命科学研究所 精神看護学教授 宇佐美しおり先生	東病棟12階 多目的ホ ール	20人	3:00
リーダー育成研修	レベルII-2以上	リーダーシップ、メンバーシップを理解し、リーダー役割を取ることができる	1)リーダーシップ、メンバーシップについて 2)リーダーシップに必要な能力 3)グループ・マネジメント	講義 GW	10/3(水) 9:00~16:45	熊本大学大学院生命科学研究所 教授 宇佐美しおり先生	東病棟12階 多目的ホ ール	28人	7:45

ラダーレベルII-2・III

ラダーレベ

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生 人数	時間数
家族看護 レベルⅡ・Ⅲ	レベルⅡ-2以上	家族看護理論を理解し、患者・家族への看護実践に活かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・家族看護の概念と基本的な考え方 ・家族看護の主な理論 ・家族看護の展開方法（家族看護エンパワーマネジメントモデル） ・事例を用いた家族看護の展開（GW） ・急性期病院での家族との関わり ・在宅療養に向けての家族看護 	講義 GW	12/17(月) 9:00～16:00	高知県立大学 基礎看護学准教授 瓜生浩子先生	東病棟12階 セミナー室2	23人	7:00
看護倫理 (3回コース)	レベルⅡ-2以上 23人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床における倫理的ジレンマに対する問題解決プロセスを理解し、事例を通して深めることができる。 2. 倫理的感受性を高めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理に関する重要概念の理解 ・Jonsenの4分割の活用方法についての理解 ・臨床で体験した倫理的問題に関する事例検討 	講義 GW	9/4(火) 11/6(火) 12/21(金) 13:00～16:45	急性・重症患者看護専門看護師 吉里 孝子 がん看護専門看護師 岡本 泰子 安達 実樹 石坂 睦子 精神看護専門看護師 江田由美子	管理棟3階 第一会議室	1回目: 26人 2回目: 25人 3回目: 25人	11:15
事例検討 (ロイ看護論)	ラダーレベルⅢ相当 の看護師	看護過程に看護理論を活用できる 1)ロイの看護理論をもとに看護を展開し事例にまとめることができる 2)看護実践における論理的思考ができる 3)ロイの看護理論を自部署に浸透できる	ロイの看護理論を用いた事例検討	講義 GW	1回目:10/26 (金) 2回目:11/20 (火) 3回目:12/20 (木)14:00～ 16:45	聖マリア学院大学教授 日高純子先生	東病棟12階 セミナー室2	1～3 回:7人	8:15

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	時間数
事例検討 (オレム看護論)	レベルⅡ-2以上	看護過程に看護理論を活用できる 1)オレムの看護理論をもとに看護を展開し事例にまどめる 2)看護実践における論理的思考を育てる 3)オレムの看護理論を自部署に浸透できる	・オレム看護理論について ・オレムの看護理論を用いた事例検討	講義 GW	Iグループ 1回目:7/2(月) 13:00~16:45 2回目:9/21(金) 3回目:10/15(月) 14:00~16:45 IIグループ 1回目:11/15(木) 13:00~16:45 2回目:1/17(木) 3回目:2/7(木) 14:00~16:45	熊本大学大学院生命科学研究所 精神看護学教授 宇佐美しおり先生	Iグループ 1回目、2回目、IIグループ 1回目、東病棟12階 多目的ホール IIグループ 3回目、IIグループ 2回目、東病棟12階 多目的ホール	Iグループ 1~3回:10人 IIグループ 1~3回:10人	17:30
看護師長管理研修	看護師長	概念化スキルについて学び、日常の看護管理に活かすことができる	1)概念的思考の基本と実際 2)論理的思考	講義 GW	1回目:6/7(木) 9:00~16:00 2回目:10/31(水) 9:00~16:00	株式会社サファイール代表取締役 看護管理総合教育研究センター 代表 河野秀一先生	東病棟12階 多目的ホール セミナー室2	34人	14:00
副看護師長管理研修	副看護師長	1)副看護師長としてコミュニケーション能力を高める 2)問題解決に向けたスキルを高め実践に活かすことができる	1)フアンリテーションスキルの復習 2)問題解決に向けたトレーニング 3)コミュニケーションスキル	講義 GW 発表	9/22(土) 9:00~16:30	グローバール・コミュニケーション シヨン 彦田 美香子先生	東病棟12階 多目的ホール	66人	6:30
次世代看護管理者研修	新副看護師長	1)社会情勢や当院の経営状況、看護管理に関して現状を把握したうえで、看護管理に役立てることができる 2)看護管理者として、副看護師長の役割を理解し組織運営ができる 3)看護管理者として、メンタルヘルスについて正しく理解し、自身および他者のメンタルケアができる	当院の経営状況・労務管理 看護管理 メンタルケア 人材育成	講義	H31/3/15(金) 13:30~16:30	熊本大学大学院生命科学研究所 精神看護学教授 宇佐美しおり先生	東病棟12階 多目的ホール	3人	3:30

レベルⅡ-2・Ⅲ

管理研修

管理研修

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生 人数	時間数
看護必要度研修	全看護職員	重症度、医療・看護必要度とは何かを正しく理解し、適切な評価ができる	重症度、医療・看護必要度とは何か事例を通して適正評価を考える	講義・テスト	8/20(月) 8/21(火) 8/23(木) 8/28(火) 8/29(水) 17:30～18:30	看護部業務委員会 業務担当副看護師長会議 重症度、医療・看護必要度グループ	総合研究棟 3階講習室	719人	5:00
講演会 I 看護部長講話	看護部職員 *平成30年度新規採用看護師は必須参加	看護部の理念・目標を共通理解し、目標に向かって行動できる	看護部の理念、方針、平成30年度の目標、教育方針	講演	4/10(火) 17:30～18:30	山本治美看護部長	医学部図書 棟3階第一 講義室、総 合研究棟3 階講習室	看護部 職員 286人 (新規 採用者 47人)	1:00
病院長講話	看護部職員	病院の理念、目標を共通理解し、看護職員が目標に向かって行動できる	1) 病院の理念・方針 2) 大学病院の職員としての心構え 3) チーム医療の中で看護職員に期待すること	講演会	4/25(木) 17:15～18:00	熊本大学医学部附属病院長 谷原秀信先生	図書棟第一 講義室 総合研究棟 安全講習会	174人	0:45
講演会 II 療養支援講演会	平成30年度 療養支援研修 生 必須 全看護職員	医療機関と地域との連携における 病院看護師の役割を理解する	1) 大学病院と地域との連携 2) 訪問診療の基礎を学び、病院看護師の役割を理解する	講演	10/23(火) 17:30～19:00	まつもと在宅クリニック 院長 松本 武敏 先生	東病棟12階 多目的ホー ル	94人 MSW2 人 訪問看護 師4 人	1:30
部署別 講演会・発表会・報告会									

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	時間数
業務改善報告会	看護部職員	他部署の報告を参考として自部署の業務改善や看護実践に活かす	部署の業務改善実践報告 1)「光学医療診療部における患者参画型安全対策の取り組み」 2)「東病棟6階における業務ワークシート活用」の検討 3)「看護補助者との協働のための5つの取り組み」 4)「看護補助者業務の業務改善についての取り組み」	発表会	11/20(火) 17:30～18:30		東病棟12階 多目的ホール	117人	1:00
看護研究研修報告会	看護部職員	発表活動を通し、研究能力を高め、相互啓発を図る	1)小児科病棟での転倒転落防止に 対する患児・付きそい家族の意識と 予防行動への介入～患者・家族参 加型の転倒転落予防行動を取り入 れたの検証～ 西病棟8階 那須 美奈子 2)造血幹細胞移植後の再発にて患 者が再移植をしないと意志決定した 要因 西病棟11階 武村 紀枝	発表会	H31/2/27(水) 17:30～18:30	熊本大学大学院 生命科学研究部教授 宇佐美しおり先生	医学教育図 書棟3講義 室	106人	1:00
活動・研修報告会	看護部職員	1)他部署及び各委員会での取り 組みを参考に自部署に活用できる 2)看護部職員公費研修に参加し て得た知識・技術を伝達講習によ り他の看護職員へ還元し、看護の 質の向上を図る	各部署及び委員会の活動報告 公費研修参加者による研修報告	活動報告	H31/2/26(火) 17:30～19:00	教育委員会 平成30年度公費研修受講者	東病棟12階 多目的ホール	132人	1:00
講演会・発表会・報告会									
講演会・発表会・報告会									

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生 人数	時間数
不妊症看護 ～ART(高度生殖補助医 療)を受ける患者への援 助～	院内看護師 約20名	不妊症患者の社会的背景、心理 を理解し看護実践に活かす事が できる	・妊娠成立と不妊症について ・不妊症患者の心理・心理過程 ・不妊症看護 ・不妊カウンセリングとは ・不妊カウンセリングの実際 ・がんと生殖	講義	8月2日(木) 17:30～19:00	不妊症看護認定看護師 本田万里子	東病棟12階 セミナー室2	看護師 14人 MSW1 人	1:30
新生児集中ケア	レベルII-1以上	①出生直後から急性期の呼吸循 環の安定化を図るために必要な知 識と観察内容がわかる ②新生児の安定化を促すケアが わかり、実践に向けて手技を学ぶ	・出生直後の呼吸循環の子宮外環 境への適応 ・新生児遅延肺高血圧症の病態と管 理、ケア ・挿管管理中のポジショニング、体位 変換のポイント、光と音環境につい て ・赤ちゃんに優しい挿管管理・おむ つ交換・体重測定・体温管理 事例を用いたバイカルアセスメント	講義 演習	1回目:10月29日 (月) 2回目:11月12日 (月) 17:30～19:00	新生児集中ケア認定看護師 斉藤祐子	東病棟12階 セミナー室2	10人 (うち2 回とも に受講 8人)	3:00
糖尿病看護	ラダーII-1以上で糖 尿病看護に関心があ る方	1)糖尿病患者のセルフケア行動 に影響する心理・社会的要因につ いて学ぶ。 2)糖尿病患者の行動変化を促進 するための援助やコミュニケーション について理解できる。	1)12月18日 患者さんのセルフケ アを困難にする背景及び血糖変動 の考え方 2)1月15日 患者さんのやる気を引 き出すコミュニケーション方法	講義 GW	1回目:12月18日 (火) 2回目:平成31年 1月15日(火) 17:30～18:45	糖尿病看護認定看護師 藤本美枝	東病棟12階 セミナー室2	9人	2:30
ストーマケア	当院のストーマケア研 修を受講した者で、現 在ストーマケアに関わ る事がある部署の看 護師	通常のケアでは対応が難しい患者 のストーマケアのポイントがわかる	1) 装具の種類、面版・皮膚保護成 分の違いと特徴 2) ドラブル発生時のアセスメントとそ の対応・装具選択のポイント(濡れが 続く場合、びらんがひどい場合、装 具が貼れない場合)	講義 演習	H31年3/14(木) 17:30～19:30	皮膚・排泄ケア認定看護師 増田未散	東病棟12階 セミナー室2	4人	1:30
認定看護師主催自主研修									
認定看護師主催自主研修									

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	時間数
せん妄アセスメントと実践に活かす予防ケア	ラダーⅡ-Ⅰ以上	せん妄について理解し早期発見、予防ケア、発症後ケアの必要性を理解し実践に活かせる	せん妄の病態と治療 せん妄のリスクアセスメントと予防・発症ケア	講義	3/4(月) 17:30~18:30	精神看護専門看護師 江田由美子 救急看護認定看護師 村上志穂	東病棟12階 多目的ホール	30人	1:00
急性期からの安全な離床と廃用予防ケア	ラダーⅠまたはⅡ看護師20名程度	1)急性期に必要な離床に向けた全身管理と安静臥床や寝たきりに伴う廃用について理解することが出来る 2)急性期から始める廃用症候群予防のための根拠とケアを学び、日々の看護に活かすことができる	1.安全な離床に向けた、呼吸/循環/認知/筋骨格系/排泄/皮膚の管理 2.急性期からの廃用症候群予防ケア/(呼吸ケア)について 3.事例検討 4.実技演習	講義 実技演習	H31/3/20 17:00~18:45	集中ケア認定看護師 田中實子 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 上田郁美	中央診療棟 7階演習室	10人	1:45
IVナーース研修(静脈注射に必要な知識と筆記試験)	クリニカルラダーレベルⅡ-Ⅰ以上もしくはレベルⅠ(レベルⅡ-Ⅰ)の看護師およびパート看護師、任期付看護師	静脈注射に必要な知識を習得し、実践に活用する ・本院の静脈注射実施基準と法的責任を理解し倫理的側面を考慮した行動ができる ・静脈注射に必要な解剖・生理を理解できる ・静脈注射に必要な薬理を理解できる ・静脈注射に必要な薬理を理解できる ・静脈注射に必要な感染管理の知識を習得し、実践に活用できる ・静脈注射に必要な安全に関する知識を習得し実践に活用できる ・緊急時に適切な対応ができる	本院における看護師・助産師の静脈注射実施基準 静脈注射に必要な解剖・生理 静脈注射に必要な薬理 静脈注射に必要なリスクマネジメント 静脈注射に必要なリスクマネジメント 静脈注射に必要な感染管理 静脈注射に必要な安全管理 静脈注射に必要な緊急時の看護 安全な静脈留置針挿入 筆記試験(30分)	DVD視聴、筆記試験	(1回目) 平成30年 6/22(金) 12:00~16:45 (2回目) 平成30年 12/5(水) 12:00~16:45	熊本大学大学院生命科学研究部先端生命科学部門医療技術科学講座機能解析分野教授 大林光念先生 薬利部 叶月子 薬剤師 救急看護認定看護師 村上志穂 副看護師長 業務委員会 徳永美紀 牛島輝美 医療の質・安全管理部GRM 田口由美子 看護師長 感染管理認定看護師 藤本陽子 副看護師長 手塚美奈 副看護師長	(1回目) 東病棟 12階 多目的ホール (2回目) 東病棟 12階 多目的ホール	第1回目43人 第2回目22人	9:30
認定看護師主催自主研修 I V 研修									

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

【中央検査部】				
研 修 名	期 間	実施回数	参加人員	備 考
新規採用者 オリエンテーション	平成30年4月3日	1	4	
新規採用者 オリエンテーション	平成30年5月	2	2	育休代替講師
ISO15189に関する研修会	平成30年7月14日	1	11	
ISO15189に関する研修会(システム)	平成30年7月19日	1	33	
ISO業合教育	平成30年7月10日	1	46	
時間外緊急検査に関する研修(血液)	平成30年4月20日	1	20	
時間外緊急検査に関する定期研修(血液、輸血)	平成30年10月24日	1	10	
時間外緊急検査に関する定期研修(生化学・免疫・凝固検査)	平成30年10月9日	1	18	
時間外緊急検査に関する研修(輸血)	平成30年10月24日	2	27	
外部精度管理調査報告会	平成31年3月20日	1	20	
臨床検査セミナー(検査全般)	平成30年5月20日	1	56	看護師対象
危機管理訓練	平成31年2月22日	1	42	災害発生による避難訓練

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

【ME機器センター】					
研 修 名	期 間	実施回数	参加人員	備 考	
人工呼吸器(NPPVについて)	平成30年4月12日(木)	1回	28名	看護師 12名 医療技術職員 16名	
NHF(ネーザルハイフロー)	平成30年4月19日(木)	1回	24名	看護師 10名 医療技術職員 12名 その他 2名	
輸液ポンプ	平成30年6月11日(月)～平成30年6月15日(金)	5回	288名	看護師 263名 医療技術職員 25名	

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

【中央放射線部】

研修名	期間	実施回数	参加人員	備考
救急医療に関する研修(実技)	平成31年1月22日(火)	1回	技師20名、看護師11名、医師2名	CT急変時シミュレーション
高精度放射線治療に関する研修(実技)	平成31年2月16日(土)	1回	技師5名	リニアックの精度管理に関する研修会
高精度放射線治療に関する研修(講義)	平成30年7月9日(月)	1回	技師7名、看護師1名、医師2名	RTT統一講習会
高精度放射線治療に関する研修(講義)	平成30年10月2日(火)	1回	技師8名、看護師1名、医師2名	熊本放射線治療物理・技術研究会報告会
高精度放射線治療に関する研修(講義)	平成30年10月9日(火)	1回	技師7名、医師1名	第46回日本放射線技術学会秋季学術大会報告会
高精度放射線治療に関する研修(講義)	平成31年1月28日(月)	1回	技師8名	第17回九州システム研究会報告会
高精度放射線治療に関する研修(講義)	平成31年2月4日(月)	1回	技師9名	第12回 南九州地域放射線治療技術合同研究会(SKRT)報告会
高精度放射線治療に関する研修(講義)	平成31年3月4日(月)	1回	技師8名、医師3名	日本放射線腫瘍学会 第32回高精度放射線外部照射部会学術大会報告会

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 谷原 秀信
管理担当者氏名	各診療科長、中央診療施設等の長、医療情報経営企画部長、薬剤部長、看護部長、医療技術部長、栄養管理部長、医療の質・安全管理部長、各課長

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	中央手術部
		看護記録	看護部
		検査所見記録	中央検査部
		エックス線写真	中央放射線部
		紹介状	各診療科
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	各診療科
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課
		高度の医療の研修の実績	総務課
		閲覧実績	総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービス課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービス課 薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	経理課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器センター
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器センター		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課
		医療安全管理部門の設置状況	医事課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療サービス課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医事課
		職員研修の実施状況	総務課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課、経理課、医事課、薬剤部
管理者が有する権限に関する状況	総務課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
閲覧責任者氏名	事務部長 増村 隆之		
閲覧担当者氏名	総務課長 川添 光芳		
閲覧の求めに応じる場所	管理棟 3階 応接室		
閲覧の手続の概要			
病院事務部（総務課総務担当）へ閲覧の要求を行う。			

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	①・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>熊本大学医学部附属病院は、適切な安全安心で質の高い医療サービスを患者及びその家族に提供するために、医療事故、医薬品管理及び医療機器管理等を踏まえた医療に係る安全管理を目指す。また、「人間はエラーを犯す」ということを前提に、従業者一人一人が医療安全管理に対する高い意識を持ち、関係する各部署及び各委員会等が連携を図り、本院における医療安全管理を推進する。</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 (①・無)</p> <p>・ 開催状況：年 13 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理に係る基本方針に関する事 2. 医療安全管理のための具体的措置に関する事 3. 医療安全に係る従業者の教育及び研修に関する事 4. 本院において重大な問題その他医療安全管理委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関する事 5. 前号の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに従業者への周知に関する事 6. 前号の改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関する事 7. 医療事故発生時の患者や家族への説明及び公表に関する事 8. その他医療に係る安全管理に関し必要な事項 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の内容 (すべて)：</p> <p>新規採用者、中途採用者のオリエンテーションとは別に、全職員を対象に実施しており、医療の質・安全管理部からの重要な通達事項(例：特定機能病院の承認要件の改正点)や、インシデントに関連したテーマの講演会(例：血管外漏出等)を実施している。</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (①・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>インシデントが発生した場合、各部署からインシデントレポートにより、医療の質・安全管理部へ報告がある。なお、重大なインシデントについては部署リスクマネージャーから即時にゼネラルリスクマネージャーへ連絡があり、ICに同席するなど初期対応から医療の質・安全管理部が介入し対応している。</p> <p>インシデントレポートを基に要因分析と再発防止策の検討を医療の質・安全管理部と医療安全管理委員会で実施している。検討した再発防止策は、リスクマネージャー連絡会議において警鐘事例とともに各部署のリスクマネージャーに通達し、その後リスクマネージャーから全職員に周知される。</p> <p>また、部署リスクマネージャーによる自部署チェック、他部署間の相互チェックや、医療の質・安全管理部運営委員会委員による院内巡視、医療安全管理者によるラウンドなど、定期的な巡回や監査も実施している。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策に関する基本的な考え方 2. 感染対策委員会、その他の医療機関内の組織に関する基本的事項 3. 院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 抗微生物薬適正使用に関する基本方針 6. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 7. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 8. その他の医療機関内における院内感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染防止対策に関する事項の審議 2. 院内感染防止対策研修会の企画・審議 3. 感染予防に関する事業の企画・実施 4. MRSA等の薬剤耐性菌の分離状況についての報告 5. 抗MRSA薬適正使用報告 6. 感染制御チーム（ICT）からの報告 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ol style="list-style-type: none"> 1. (医療系) 『抗菌薬適正使用支援チーム Antimicrobial Stewardship Team (AST) の発足』 <ul style="list-style-type: none"> ・ Antimicrobial Stewardship (AS) について ・ 抗菌薬適正使用マニュアルの作成と内容 (事務系) 『病院で仕事をする上で気をつけること ～不明なものには気を付けよう～』 <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染性のあることについて院内で気をつけること、予防、対応策 2. (医療系) 『インフルエンザ』 <ul style="list-style-type: none"> ・ インフルエンザと「かぜ」の違い ・ インフルエンザの感染対策、予防 ・ インフルエンザに罹ったら (事務系) 『インフルエンザは突然に ～あの日・あの時・あの行動～』 <ul style="list-style-type: none"> ・ インフルエンザの予防、発症時の対応について 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師等の多職種からなる ICT を組織し、病原感染対策マニュアルの制定、院内感染発生時の対応、院内ラウンド、抗菌薬適正使用の推進、病院感染防止の教育・啓発、職業感染防止対策などの活動を行っている。</p> 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る
措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 6 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>【院内研修】</p> <p>(1) 平成 30 年 4 月 3 日・「薬剤部の業務内容と院内における医薬品の取り扱いについて」・105 名 (講師；副薬剤部長、対象；新採用職員)</p> <p>(2) 平成 30 年 5 月 8 日・「平成 30 年度第 1 回新採用医師を対象とした医薬品安全使用等にかかる研修会」・ 143 名(講師；薬剤師、対象；新採用医師)</p> <p>(3) 平成 30 年 6 月 5 日・「看護師に必要な薬理作用の基礎知識」・53 名 (講師；薬剤部長、対象；新採用看護師)</p> <p>(4) 平成 30 年 7 月 4,9,12 日・「平成 30 年度前期院内感染対策研修会及び医療安全のための講演会(医療系) 「抗菌薬適正使用マニュアルの作成と内容」・1182 名 (講師；薬剤師、対象；全職員)</p> <p>(5) 平成 30 年 10 月 23 日・「平成 30 年度第 2 回新採用医師を対象とした医薬品安全使用等にかかる研修会」・ 45 名(講師；薬剤師、対象；新採用医師)</p> <p>(6) 平成 30 年 12 月 10,12,14 日・「平成 30 年度後期院内感染対策研修会及び医療安全のための講演会(医療系) 「本院で発生した麻薬事故と事故発生時の対応について」・1110 名 (講師；薬剤師、対象；全職員)</p> <p>【病棟別等の対象限定での研修】</p> <p>(1) 平成 30 年 5 月 22 日・「腎細胞癌に使用する分子標的薬の内服治療薬について」・ 10 名(講師；薬剤師、対象；西病棟 10 階看護師)</p> <p>(2) 平成 30 年 7 月 27 日・「整形外科領域における化学療法」・6 名(講師；薬剤師、対象；東病棟 2 階看護師)</p> <p>(3) 平成 30 年 8 月 19 日・「知っておくべき薬理」・26 名(講師；副薬剤部長、対象；検査技師)</p> <p>(4) 平成 30 年 8 月 24 日・「カテコラミン・配合変化について」・9 名(講師；薬剤師、対象；東病棟 5 階看護師)</p> <p>(5) 平成 30 年 12 月 1 日・「平成 30 年度第 14 期 リンクナース育成研修コース 抗菌薬について」・ 14 名(講師；薬剤師、対象；感染リンクナース)</p> <p>(6) 平成 31 年 2 月 1 日・「平成 30 年度肝炎サロン：肝疾患と糖尿病治療」・ 30 名(講師；薬剤師、対象；熊本県肝疾患診療連携拠点病院肝疾患センター関係者・患者・その家族)</p> <p>(7) 平成 31 年 3 月 12 日・「医療用麻薬の使用状況と処方時の注意～本院の麻薬事故を教訓として～」・ 64 名(講師；薬剤師、対象；全職員・県内の医療従事者・医学生)</p> <p>(8) 平成 31 年 3 月 16 日「中央放射線部で使用する薬剤についての注意点」・ 26 名(講師；薬剤師、対象；中央放射線部看護師・技師)</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (①・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>医薬品安全管理責任者に薬剤部長を任命(平成 19 年 4 月)し、院内に医薬品安全管理専門委員会を設置した。 『医薬品の安全使用のための業務手順書』(以下、業務手順書)は平成 19 年 7 月に作成した。 平成 30 年 9 月には、医薬品安全管理専門委員会を開催し、業務手順書を改訂した(第 13 版)。今回の改訂内容に ついては以下の通りである。</p> <p>(1) 元号を西暦に変更 (2) 目次を挿入 (3) 医薬品管理室業務手順書の版改訂(2018 年 8 月改訂へ) (4) 検収時の確認項目に変形・破損の有無を追記 (5) 向精神薬(第 1 種、第 2 種)は常時施錠し、鍵の管理を追記 (6) 品質管理について、医薬品管理室業務手順書(2018 年 8 月改訂)に従って行うことを追記 (7) 毒薬、向精神薬(第 1 種、第 2 種)は常時施錠、鍵の管理を追記 (8) 保管条件に湿度を追記</p>	

- (9)ファーストクラスをガルーンに変更
- (10)外来処方オーダー時の警告に「絶対病名禁忌」を追記
- (11)オーダー時の警告が出た場合の対応
「原則として処方することはできない。ただし、代替薬が無くやむを得ず処方する場合は、」を追記
- (12)熊本大学医学部附属病院医薬品集の改訂(2018 年版へ)
- (13)調剤内規の改訂(第 15 版へ)
- (14)入院処方オーダー時の警告に「絶対病名禁忌」を追記
- (15)混合調製後の TPN を薬剤部から各部署へ搬送する時の形態を追記

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)
- ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば) :

使用事例無し

・ その他の改善のための方策の主な内容 :

- 1) 医薬品安全管理責任者は、院内各部署における常備医薬品に関する管理状況、内用剤・外用剤・注射剤の調剤時における疑義照会内容、外来化学療法室における疑義照会事例および病棟薬剤業務に関連した疑義照会事例等について、情報の収集・確認に努め、医療安全管理委員会において、その状況等を報告している。院内で発生した薬剤業務関連のインシデント事例について薬剤師への情報共有・周知を図り、再発防止のための注意喚起に努めている。
- 2) 院内各端末からは、病院情報管理システムを用いて、最新(毎月1回更新)の添付文書情報を閲覧可能としており、また、新規採用医薬品については、毎月発行の院内情報誌「熊大病院・医薬品情報」にて概要と注意事項等の情報を発信すると共に、病院情報システム内の院内専用電子掲示板「医薬品情報」にも掲示している。
- 3) 調剤(注射剤調剤を含む)に際しては、質疑応答内容を記録し、処方鑑査、疑義照会および医薬品安全使用の目的に活用している。がん化学療法においては、処方ミス回避し安全性を確保するため、注射用抗がん剤に対する処方は専用のレジメンオーダーリングシステムのみでの運用に限定している。注射用抗がん剤の無菌調製は休日も含め全て薬剤部で担当している。
- 4) 治療域の狭い薬物や個体差の大きい薬物等については、薬物血中濃度モニタリング(TDM)による投与設計・管理を推奨し、特に抗MRSA薬については、毎月度開催される感染対策委員会においてTDM実施状況を報告し、TDMに基づいた適正投与を行うように医師に対し周知徹底を図っている。
- 5) 未承認医薬品については、院内では「本院で使用したことのない医薬品であって、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」における承認又は認証を受けていないもの」と定義した上で、薬剤部で調剤(分包依頼、剤形変更などの特殊製剤依頼等も含む)する際には、未承認医薬品の使用が倫理委員会(人を対象とする医学系研究臨床研究部門倫理委員会、臨床倫理委員会)の承認を得ていることを書面にて確認している。医薬品安全管理責任者が指名した薬剤師(担当薬剤師)は未承認医薬品の使用状況及び規程遵守状況等を月1回定期的に確認し、医薬品安全管理責任者へ報告している。
- 6) 平成30年度の新規取組み事項
 - (1) 平成30年6月25日より、時間外の質疑応答記録作成を開始し、内容については、翌日勤帯に医薬品情報室員が確認し、回答内容に不備がある場合は追加情報提供を行うなど、医薬品情報提供管理の強化を行った。
 - (2) 平成30年10月16日より、医薬品使用の安全対策強化を目的として、併用禁忌・用法用量超過・アレルギー歴などと同様に、「H₂-blocker」と「PPI」の重複処方事例については、「警告突破理由」を必須とするシステム運用を開始した。
 - (3) 平成29年1月の病院情報システムの更新に際し、処方オーダー入力の1回量処方を導入したが、1回量と1日量の入力間違えが散見された。そこで、平成30年10月にこれまでの間違い事例を抽出し、導入開始後より10件以上報告があるものとハイリスク薬について、処方量上限値設定の見直し(常用量2倍→常用量上限値)を行った。上限値超過処方については「警告突破理由」を必須とすることで安全管理の強化を行った。
 - (4) 医薬品情報室にて作成した以下の資料を、院内情報誌「熊大病院・医薬品情報」にて発信するとともに病院情報システム内の院内専用電子掲示板「医薬品情報」にも掲示し周知を図った。
 - No.372 6月号「オピオイド鎮痛薬の換算について」
 - No.364 8月号「ビグアナイド系糖尿病薬とヨード造影剤の併用について」
 - No.377 11月号「抗インフルエンザウイルス剤について」

「ドブタミン塩酸塩製剤の使用に当たっての留意事項について」

No.380 2月号「ロコアテープとNSAIDs経口剤・坐剤などの併用について」

No.381 3月号「医療用医薬品の添付文書記載要領の改定について」

院内専用電子掲示板“医薬品情報”への掲示「術前中止が必要なサプリメント一覧」

- (5) 入院前の処方薬や処方薬以外のサプリメント等の使用状況把握ならびに患者、患者家族への医薬品等の適正使用・安全使用の啓発を目的とし、【内服薬、サプリメント等について】、入院患者に渡す入院時案内(入院のご案内)の冊子に新たに掲載した。
- (6) 調剤鑑査サポートシートの表記内容について、平成30年度9月25日より、「疑義照会タイトル」および「特定薬剤履歴」の項目を追加し、鑑査業務を強化した。
- (7) 在庫麻薬の使用期限確認を、これまで半期に一度の実地棚卸しの際に実施していたが、平成30年5月より毎月月末に実施することとした。
- (8) 中央手術部で使用した常備麻薬の開封済アンプル(バイアル)について、開封済アンプル(バイアル)を全て空箱に充填して総数を確認しやすいようにし、麻薬室への返却時、新たに補充したアンプル(バイアル)と使用済アンプル(バイアル)の数が一致することを確認することとした。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年21回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>平成30年 4月 輸液ポンプ、人工呼吸器、除細動器の正しい使い方・・・・・・・・・・研修医41名 4月 閉鎖式保育器の基礎と使用方法・・・・・・・・・・医師7名、看護師3名、医療技術職員16名、一般職員2名 5月 除細動器の原理と日常点検・・・・・・・・・・医師1名、看護師57名、医療技術職員24名、一般職員3名 6月 補助循環装置（IABP、PCPS）・・・・・・・・・・看護師28名、医療技術職員10名、一般職員2名 7月 人工呼吸器・・・・・・・・・・医師2名、看護師36名、医療技術職員16名、一般職員2名 7月 放射線治療機器リニアックの安全な使用方法・・・・・・・・・・医療技術職員8名 8月 人工心肺の基礎・・・・・・・・・・看護師8名、医療技術職員13名、一般職員2名 9月 血液浄化装置・・・・・・・・・・医師1名、看護師14名、医療技術職員18名、一般職員1名 10月 放射線治療器RALSの安全な使用方法・・・・・・・・・・医師1名、看護師1名、医療技術職員8名 10月 放射線治療機器リニアックの安全な使用方法・・・・・・・・・・医師1名、医療技術職員8名 11月 除細動器・・・・・・・・・・看護師11名、医療技術職員17名、一般職員1名 12月 補助循環装置とその管理・・・・・・・・・・医師1名、看護師5名、医療技術職員18名、一般職員1名 平成31年 1月 人工呼吸器・・・・・・・・・・看護師46名、医療技術職員13名、一般職員1名 1月 放射線治療機器リニアックの安全な使用方法・・・・・・・・・・医療技術職員7名 2月 人工心肺装置・・・・・・・・・・看護師20名、医療技術職員20名、一般職員1名 2月 放射線治療器RALSの安全な使用方法・・・・・・・・・・医療技術職員8名 3月 血液浄化装置（アフェレーシス療法）・・・・・・・・・・医師1名、看護師4名、医療技術職員16名、一般職員1名 3月 放射線治療機器リニアックの安全な使用方法・・・・・・・・・・医師3名、医療技術職員7名</p> <p>医療機器導入時研修 12回 医師110名 看護師108名 医療技術職員34名</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有)・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>医療機器保守・点検業務手順書に則り、人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、直線加速器、RALS、輸液ポンプ、シリンジポンプ、小型シリンジポンプ、経腸栄養ポンプ、低圧持続吸引器、空気除菌・脱臭装置、AED、麻酔器は保守点検に関する計画を策定し、ME機器センター技士ならびに製造販売業者が保守点検を実施している。保守点検後は、その状況を月報として医療機器安全管理責任者に報告し、最終的には病院長が委員長となっている医療安全管理委員会に提出されている。上記の医療機器は、始業点検・終業点検、使用中点検についても医療機器保守・点検業務手順書に則り実施している。なお、医療機器不具合時の対応法について院内ネットワークで閲覧できる状態であり、不具合機器は、医療機器修理依頼書とともにME機器センターに持参してもらっている。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有)・無)</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば)：</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医療安全情報で医療機器の不具合に関する事例が報告された際、聞きなれない言葉が出た際には、詳細を記したME機器センターニュースを発行し、各病棟に配布している。また、他施設で起こった医療事故に関しては医療機器の安全使用のための研修会の中でも説明することもある。なお、研修会に参加できなかった医療職員のために当日配布した資料を回覧板として渡し、後日、回収している。</p> <p>医療機器の添付文書はME機器センターで管理するとともに、院内ネットワーク上で何時でも閲覧できる。当センター職員は、院外の講演会、技術講習会に参加して技術の習得に努めている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 9 条の 20 の 2 第 1 項第 1 号から第 1 3 号に掲げる事項の実施状況

<p>① 医療安全管理責任者の配置状況</p>	<p>有・無</p>								
<p>・責任者の資格 (医師 <u>歯科医師</u>) ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>管理者を議長として毎週開催される「医療安全対策に関するカンファレンス」及び毎月開催される「医療安全管理委員会」のメンバーとして医療安全管理責任者をはじめ、医療安全管理部門の医療安全管理者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者が出席しており、各所掌事項の報告や検討事項について情報を共有している。特に組織横断的に病院全体での検討が必要な事項等においては、医療安全管理責任者と相談した上で、医療安全管理委員会に諮り審議している。</p>									
<p>② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況</p>	<p>有 (12名) ・無</p>								
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>○医薬品の安全使用のために必要となる医薬品の使用状況の確認及び関連情報の整理 医薬品安全管理責任者が指名した薬剤師 (担当薬剤師) は、病院情報システムから得られたデータ、薬剤部疑義照会システムに記録されたデータ並びに薬剤部病棟業務カンファレンスで報告された事例等を基に、院内における医薬品の使用状況を月 1 回定期的に確認している。その結果を踏まえて、医薬品安全管理責任者は、重要な添付文書情報、緊急安全性情報、安全性速報、適応外使用・禁忌医薬品使用・未承認医薬品使用 (「適応外使用」、「禁忌医薬品使用」及び「未承認医薬品等」の医薬品安全管理に係る情報) を確認・整理している。</p> <p>○医薬品の適正使用に係る情報の院内周知及び周知状況の確認 医薬品安全管理責任者は、担当薬剤師より報告された情報を医療安全管理委員会へ報告し、本委員会の判断の下に、必要に応じて医療安全管理部より院内全体に対し医薬品の適正使用のための注意喚起情報を周知している。“リスクマネージャー連絡会議の通達内容” および日本医療機能評価機構から発信される“医療事故情報収集等事業・医療安全情報”については、院内各部署に書面で配付し、署名にて周知状況を確認している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>○適応外使用及び禁忌医薬品使用に関する情報収集と確認 担当薬剤師による適応外使用及び禁忌医薬品使用に関する情報を月 1 回定期的に収集した内容について、医薬品安全管理責任者が確認している。</p> <p>○未承認医薬品の使用状況の確認 担当薬剤師による未承認医薬品の使用状況等を月 1 回定期的に確認した内容について、医薬品安全管理責任者が確認している。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有・無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>(所属：薬剤部、職種 副薬剤部長)</td> <td>(所属：薬剤部、職種 医療安全支援室長)</td> </tr> <tr> <td>(所属：薬剤部、職種 調剤室長)</td> <td>(所属：薬剤部、職種 麻薬室長)</td> </tr> <tr> <td>(所属：薬剤部、職種 注射剤調剤室長)</td> <td>(所属：薬剤部、職種 製剤室長)</td> </tr> <tr> <td>(所属：薬剤部、職種 病棟薬剤業務支援室長)</td> <td>(所属：薬剤部、職種 医薬品情報室長)</td> </tr> </table>		(所属：薬剤部、職種 副薬剤部長)	(所属：薬剤部、職種 医療安全支援室長)	(所属：薬剤部、職種 調剤室長)	(所属：薬剤部、職種 麻薬室長)	(所属：薬剤部、職種 注射剤調剤室長)	(所属：薬剤部、職種 製剤室長)	(所属：薬剤部、職種 病棟薬剤業務支援室長)	(所属：薬剤部、職種 医薬品情報室長)
(所属：薬剤部、職種 副薬剤部長)	(所属：薬剤部、職種 医療安全支援室長)								
(所属：薬剤部、職種 調剤室長)	(所属：薬剤部、職種 麻薬室長)								
(所属：薬剤部、職種 注射剤調剤室長)	(所属：薬剤部、職種 製剤室長)								
(所属：薬剤部、職種 病棟薬剤業務支援室長)	(所属：薬剤部、職種 医薬品情報室長)								
<p>④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況</p>	<p>有・無</p>								
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する</p>									

規程の作成の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)
・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 ： 監査担当医師と診療情報管理士が毎月実施する診療録の監査の中で、患者説明の記録や説明・同意書についても監査を行い確認し、結果を運営審議会において報告している。また、同結果をリスクマネージャー連絡会議においても報告し、部署リスクマネージャー等を通じて規程の遵守について指導を行っている。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
-----------------------	--

・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： ・ 毎月実施する診療録の監査実施と集計結果報告 実施者：監査担当医師 230 名、診療情報管理士 11 名 量的点検：全入院患者の診療録、及び一部の外来患者診療録 医学管理料等及び質的点検：入院診療録 500～600 例／月、外来診療録 330 例／月、 ・ 監査結果を院内諸会議にて報告、診療科（監査担当医師）へ報告 監査結果の不備について、主治医宛に症例別報告書にて通知、または医師へ直接連絡 ・ 入職時のオリエンテーションにて、診療録等記載マニュアルをもとに講義

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
-----------------	--

・ 所属職員：専従（4）名、専任（3）名、兼任（17）名 うち医師：専従（0）名、専任（2）名、兼任（8）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（3）名、専任（0）名、兼任（4）名 (注) 報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること ・ 活動の主な内容： (1) 医療の安全性の確保及び向上に係る方策の立案、推進及び検証に関すること。 (2) 医療安全管理に係る教育・研修の実施に関すること。 (3) 医療に係る安全の確保に資する診療状況の把握及び従業者の医療安全に対する意識向上の状況確認に関すること。 (4) 事故その他医療の質・安全管理部において取り扱うことが必要なものとして病院長が認める事象が発生した場合における診療録その他診療に関する記録の確認、当該事象に関わる患者又はその家族への説明、当該事象発生の原因究明その他の対応状況の確認及び当該確認の結果に基づく従業者への必要な指導に関すること。
--

- (5) 高難度新規医療技術の提供の適否等に関する事。
- (6) 未承認新規医薬品等の提供の適否等に関する事。
- (7) 医療安全管理に係る連絡調整業務に関する事。
- (8) 医療安全管理マニュアルに関する事。
- (9) 熊本大学医学部附属病院医療安全管理委員会に係る事務に関する事。
- (10) 職員のメンタルヘルス支援に関する事。
- (11) 医療事故及び医療紛争の当事者及びその家族の心理的支援に関する事。
- (12) 医療の質・安全管理部長が必要と判断する患者及びその家族への心理的支援に関する事(前号に規定する業務を除く。)
- (13) その他医療の質及び医療安全管理に関し必要な事項

・医療安全に資する診療内容についてのモニタリングの具体例:

中心静脈カテーテルの適正な施行状況や病理部における適切な検体の運用についてモニタリングしている。また、肺血栓予防について、2019年8月からシステムを改修し、15歳未満の患者を除く全入院患者へのスクリーニングをしている。

・従事者の医療安全の認識についてのモニタリングの具体例:

「医療安全のための講演会」の受講状況について随時把握し、未受講者についてはeラーニングを受講するよう指導している。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（7件）、及び許可件数（7件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 - (1) 診療科等の長から申請を受理した場合において、当該申請の内容を確認するとともに、高難度新規医療技術評価委員会に対し、高難度新規医療技術の提供の適否等について意見を求めること。
 - (2) 前号の意見の求めに応じ、高難度新規医療技術評価委員会が述べた意見を踏まえ、高難度新規医療技術の提供の適否等について決定し、申請を行った診療科等の長に対し、その結果を高難度新規

医療技術提供審査結果通知書により通知すること。

- (3) 高難度新規医療技術の適正な手続に基づく提供に関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容の確認すること。
- (4) 高難度新規医療技術の適正な手続に基づく提供について、従業者の遵守状況の確認を行うこと。
- (5) 高難度新規医療技術の提供の適否等について決定したとき、及び前号の従業者の遵守状況の確認をしたときに、その内容について病院長に報告すること。
- (6) 高難度新規医療技術評価委員会に係る事務を行うこと。
 - ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)
 - ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 (1 件) 、及び許可件数 (1 件)
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有 ・ 無)
- ・ 活動の主な内容：
 - (1) 診療科等の長から申請を受理した場合において、当該申請の内容を確認するとともに、未承認新規医薬品等評価委員会に対して、未承認新規医薬品等の使用の適否等について意見を求めること。
 - (2) 前号の意見の求めに応じ、未承認新規医薬品等評価委員会が述べた意見を踏まえ、未承認新規医薬品等の使用の適否等について決定し、申請を行った診療科等の長に対し、その結果を未承認新規医薬品等使用審査結果通知書により通知すること。
 - (3) 未承認新規医薬品等の適正な手続に基づく使用に関し、定期的に、及び使用後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認すること。
 - (4) 未承認新規医薬品等の適正な手続きに基づく使用について、従業者の遵守状況の確認を行うこと。
 - (5) 未承認新規医薬品等の適否等について決定したとき、及び前号の従業者の遵守状況を確認したときに、その内容について病院長に報告すること。
 - (6) 未承認新規医薬品等評価委員会に係る事務を行うこと。
 - ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)
 - ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 2 1 2 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 1 4 1 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 1. 報告の実施状況(発生内容や頻度、その後の患者の転帰等)の確認と、確認結果の管理者への報告。
 2. 報告等の実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための従業者への研修及び指導

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り ((病院名：三重大学) ・無)
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ ((病院名：弘前大学) ・無)
- ・技術的助言の実施状況

安全上許容できないリスクがあると判断する処方把握した場合に、医薬品安全管理責任者がその使用を止める仕組みがないことに対し、今後、医薬品安全管理責任者が相談できる仕組みを病院として検討いただきたいとの助言に対し、「医薬品の安全使用のための業務手順書」に「医薬品安全管理責任者が安全上許容できないリスクがあると判断する処方把握した場合には、医薬品安全管理責任者の所属する倫理委員会（人を対象とする医学系研究臨床研究部門倫理委員会、臨床倫理委員会）の審議を経て薬剤使用の適否を判断する。」を追記した。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況

患者様やご家族からの医療の安全管理に係る相談等に対応する窓口として「患者相談室・医療安全相談室」を設置しており、直接の相談や電話による相談に対して適切に応じる体制を整えている。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況

新規採用者、中途採用者のオリエンテーションとは別に、医療に係る安全管理のための職員研修を全職員を対象に年2回実施しており、医療安全管理部からの重要な通達事項(例:特定機能病院の承認要件の改正点)や、インシデントに関連したテーマの講演会(例:血管外漏出等)を実施している。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者：平成30年度第3回特定機能病院管理者研修（H31. 1. 21, 22）受講済

医療安全管理責任者：平成30年度第2回 特定機能病院管理者研修』（H30. 12. 2）受講済

医薬品安全管理責任者：平成30年度第4回特定機能病院管理者研修（H31. 2. 6）受講済

医療機器安全管理責任者：平成30年度第2回特定機能病院管理者研修（H30. 12. 2）受講済

いずれも 公益財団法人 日本医療機能評価機構主催

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p>
<p>・ 基準の主な内容</p> <p>医師免許を有し、医療法（昭和23年法律第205号）の規定に則った者であるとともに、人格が高潔で学識に優れ、次世代の医療に貢献すべく先端医療研究の推進、優れた医療人の育成および病院の管理運営に関し識見を有し、以下の点に合致する者</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医療安全管理業務に対する知見・経験2. 病院の管理運営・経営に必要な能力3. 熊本大学医学部附属病院に求められるミッションの遂行
<p>・ 基準に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</p>
<p>・ 公表の方法</p> <p>国立大学法人熊本大学病院長候補者選考規則を熊本大学ホームページで公表。</p>

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無			
<p>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・無）</p> <p>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 公表の方法</p>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		(有)・無	
<p>・合議体の主要な審議内容 病院の管理運営・経営等に関する重要事項及び病院長候補適任者の選考に関する事項</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況 院内コミュニケーションシステム（ガルーン）により、資料・議事録を掲載し周知</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（(有)・無）</p> <p>・公表の方法 熊本大学規則集システムやガルーンに掲載し公表</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・(無)）</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
谷原 秀信	○	医師	病院長、総合臨床研究部長
坂上 拓郎		医師	呼吸器内科長
田中 基彦		医師	消化器内科長、光学医療診療部長
松岡 雅雄		医師	血液内科長、膠原病内科長、感染免疫診療部長、がんセンター長、輸血・細胞治療部長
向山 政志		医師	腎臓内科長、脳神経内科長
荒木 栄一		医師	副病院長、糖尿病・代謝・内分泌内科長、栄養管理部長、高度医療開発センター長
辻田 賢一		医師	副病院長、循環器内科長
福井 寿啓		医師	副病院長、心臓血管外科長
鈴木 実		医師	呼吸器外科長
馬場 秀夫		医師	消化器外科長、中央手術部長
山本 豊		医師	乳腺・内分泌外科長

日比 泰造		医師	小児外科長、移植外科長、移植医療センター長
神波 大己		医師	泌尿器科長
片渕 秀隆		医師	婦人科長、産科長、総合周産期母子医療センター長
中村 公俊		医師	小児科長
宮本 健史		医師	整形外科長、リハビリテーション部長
尹 浩信		医師	皮膚科長、形成・再建科長、中央材料部長
井上 俊洋		医師	眼科長
折田 頼尚		医師	耳鼻咽喉科・頭頸部外科長
中山 秀樹		歯科医師	副病院長、歯科口腔外科長
池田 理		医師	画像診断・治療科長
大屋 夏生		医師	副病院長、放射線治療科長、中央放射線部長、総合臨床研修センター長
竹林 実		医師	神経精神科長
武笠 晃丈		医師	脳神経外科長
山本 達郎		医師	麻酔科長、集中治療部長、ME 機器センター長
松井 啓隆		医師	中央検査部長
三上 芳喜		医師	病理部長
入江 弘基		医師	救急・総合診療部長
宇宿 功市郎		医師	副病院長、医療情報経営企画部長
西 一彦		医師	血液浄化療法部長
齋藤 秀之		薬剤師	薬剤部長
山本 治美		看護師	副病院長、看護部長
羽手村 昌宏		診療放射線技師	医療技術部長
近本 亮		医師	医療の質・安全管理部長
野坂 生郷		医師	感染制御部長、地域医療連携センター長
増村 隆之		事務職員	副病院長、事務部長
笠岡 俊志		医師	災害医療教育研究センター長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 公表の方法
熊本大学規則集システムによる公表

- ・ 規程の主な内容

「熊本大学病院規則」、「国立大学法人熊本大学法人基本規則」

病院規則において、「特定機能病院の管理者として管理運営に関する権限に基づき、業務を総括し、所属職員を監督する。」と規定されている。また、本年4月から病院長は、病院経営担当の理事として任命されており、法人基本規則に規定されているとおり、学長を補佐して法人の業務を掌理し、役員会の構成員として本学の重要事項に係る議決に参画しており、設置者である学長との連携がより強化されている。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - ・ 副病院長：病院長の職務の一部を補佐
 - ・ 病院長特別補佐：病院長が命ずる病院における特別な事項を担当し、病院長を補佐

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

平成31年4月に大学附属病院化したことに併せ、病院の運営に係る会議体制を見直し、病院長、副病院長及び病院長特別補佐の病院中枢の執行部が、病院運営の課題や将来の展望・方向性等を意見交換し共通理解を図ることを趣旨とした「病院運営カンファレンス」を新設し、構成員は各担当分野について問題意識をもって同会議に臨んでいる。また、看護師の特定行為研修や入退院支援体制等、病院運営において課題となる事項を検討するWGの座長に副病院長を指名し、副病院長のマネジメント力のスキルアップを図っている。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況	①・無
<p>・監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>本院の医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務の状況について病院長から報告を求め、又は必要に応じ確認を実施するとともに、必要に応じ医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を述べる。</p> <p>また、監査報告書を学長に提出するとともに、監査結果を公表する。</p> <p>・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（①・無）</p> <p>・委員名簿の公表の有無（①・無）</p> <p>・委員の選定理由の公表の有無（①・無）</p> <p>・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（①・無）</p> <p>・公表の方法：</p> <p>熊本大学ホームページによる公表</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
綾部 貴典	宮崎大学医学 部附属病院 医療安全管理 部	○	医療安全に関する見識を有する者	有・①	1
藤木 美才	ふじき法律事務所		法律に関する識見を有する者	有・①	1
石崎 哲彦	熊本大学肝移植 いちょうの 会 With		医療を受ける者 その他の医療従事者以外の者	有・①	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

熊本大学監事監査において、法令等に従い、業務の適正かつ効果的、効率的、経済的な運営を図ること及び会計経理の適正を確保するための監査を実施。

熊本大学内部監査において、業務の有効性及び効率性並びに業務処理の適法性について検証するとともに、リスク・マネジメント、内部統制及びガバナンス・プロセスの有効性について評価し、その結果に基づき是正又は改善のための助言、提言を行うための監査を実施。

・ 専門部署の設置の有無 (有 ・ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (有 ・ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)

・ 公表の方法

熊本大学ホームページによる公表

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<p>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況</p> <p>平成 31 年 1 月 1 日に外部有識者 7 名を含めた熊本大学病院アドバイザー会議を設置し、同月 17 日に第 1 回会議を開催した。 同会議において、病院長の専任制及び次期病院長候補者の人材育成について、研究力向上の視点から運営審議会への基礎系教員の意見反映策等について意見交換が行われた。</p> <p>・ 会議体の実施状況 (年 1 回)</p> <p>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数 (有・無) (年 1 回)</p> <p>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無 (有・無)</p> <p>・ 公表の方法 熊本大学ホームページによる</p>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称： 熊本大学病院アドバイザー会議			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
(前任者退職により選考中)	理事・副学長	○	有・無
甲斐 隆博	株式会社肥後銀行代表取締役会長		有・無
田川 憲生	くまもと新世紀株式会社代表取締役会長		有・無
田嶋 徹	熊本県副知事		有・無
二塚 信	熊本大学同窓会連合会会長 医療法人社団寿量熊本機能病院顧問		有・無
高橋 毅	国立病院機構熊本医療センター院長		有・無
福田 稠	熊本県医師会会長 医療社団法人愛育会福田病院理事長		有・無
星子 邦子	NPO 法人ワークショップいふ理事長		有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 メール、院内コミュニケーションシステム (ガルーン掲示板) への掲示

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	① 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構、平成26年12月	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	① 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 本院ホームページ、熊大病院ニュース（年2～3回発行）、熊大病院概要（毎年度発行）等を活用し、本院の役割に関する情報を発信している。 また、熊本県内外の医療機関と交流を図るため、熊本大学病院連携病院長懇談会を設置しているが、当会において、各医療機関と意見交換を密にすることにより、種々の情報発信を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	① 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 当該科からのコンサルテーションシートに基づき、他科の診療科が必要に応じて診療・治療・検査等を連携して行う。	

(様式第8)

熊大病医事第155号
令和元年10月1日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人熊本大学長 原田 信

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

管理者：平成30年度第3回特定機能病院管理者研修（H31.1.21.22）受講済
令和元年度第2回特定機能病院管理者研修〔継続〕（R1.12.16）受講予定
医療安全管理責任者：平成30年度第2回特定機能病院管理者研修（H30.12.2）受講済
令和元年度第1回特定機能病院管理者研修〔継続〕（R1.10.11）受講予定
医薬品安全管理責任者：平成30年度第4回特定機能病院管理者研修（H31.2.6）受講済
令和元年度第4回特定機能病院管理者研修〔継続〕（R02.2.12）受講予定
医療機器安全管理責任者：平成30年度第2回特定機能病院管理者研修（H30.12.2）受講済
令和元年度第4回特定機能病院管理者研修〔継続〕（R02.2.12）受講予定
※いずれも 公益財団法人 日本医療機能評価機構主催
医薬品安全管理責任者：令和元年度日本病院薬剤師会医薬品安全管理責任者等講習会
（R01.8.2）受講済【主催者：一般社団法人日本病院薬剤師会】

2. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：専従（4）名、専任（3）名、兼任（17）名
うち医師：専従（0）名、専任（2）名、兼任（8）名
うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名
うち看護師：専従（3）名、専任（0）名、兼任（4）名
うちその他：専従（0）名、専任（1）名、兼任（4）名

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

2020年（令和2年）4月1日から専従医師1名を配置予定